SONY PCV-R73K/R63K

SONY

4-647-305-**01** (1)

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

パーソナルコンピューター
PCV-R73K/R63K

i™ **S400**

© 2000 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6〜13ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**

❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く

❸ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のCD-RWドライブが搭載されています。

□ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
□ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
□ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
□ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
□ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
□ CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

目次

⚠ 警告・⚠ 注意 6
マニュアルの使いかた 14
本機の使いかたがわからないときに 15
オンラインマニュアルの使いかた 15
Windows 2000のヘルプの使いかた 17
各ソフトウェアのヘルプを見る 18
各部の名称と働き 19

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる 30
電源を切る 31
再起動する 33
マウスを使う 34
ホイールボタンの使いかた 37
キーボードを使う 39
キーボードショートカット 43
文字を入力する 49
日本語入力のまえに 49
入力のしかたを選ぶ 51
文字入力を練習する 52
CD-ROMを使う 57
ディスクを入れる 57
データを使う 60
使用できるディスク 62
CD-RW／CD-Rにデータを記録する 63
フロッピーディスクを使う 67
フロッピーディスクを入れる 67
フロッピーディスクのデータを使う 68
フロッピーディスクにデータをコピーする 70
フロッピーディスクを初期化する 71
データを書き込み禁止にする 72
使用できるフロッピーディスク 73

VAIOを使いこなす

テレビ番組やビデオを録画／再生する 74
テレビを操作する 76
動画で楽しむ 78
i.LINK対応機器から動画を取り込む 78
動画を加工／編集する 80
動画を電子メールで送る 81
静止画で楽しむ 82
i.LINK対応機器から静止画を取り込む 82
静止画を電子メールで送る 83
パノラマ画像を作る 84
写真入りのラベルを作る 85
他の機器とデータをやりとりする 86
「Smart Connect」を使ってデータをやりとりする 86
PCカードを使ってデータをやりとりする 87
ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする 88
音楽CDを再生する 89

拡張編

周辺機器を接続する

i.LINK対応機器をつなぐ 92
i.LINKとは？ 94
i.LINKでの接続について 95
必要なi.LINKケーブル 97
本機と操作できる i.LINK対応機器 98
AV機器をつなぐ 99
ビデオ機器をつなぐ 100
テレビにつなぐ 104
プリンタをつなぐ 106
USB機器をつなぐ 107
ジョイスティック／ MIDI機器をつなぐ 108

本体を拡張する

拡張ボードを増設する 109
拡張ボードの種類 109
プラグアンドプレイについて 109
リソースについて 110
拡張ボード取り付けの流れ .. 111
拡張ボードを取り付ける 112
PCカードを使う 116
PCカードとは 116
PCカードを取り付ける 118
メモリを増設する 120
メモリモジュールを取り付ける 120
ハードディスクドライブを増設する 127
ハードディスクドライブを取り付ける 127
その他のデバイスを増設する 131
デバイスを取り付ける 131

セットアップ編

操作環境を自分の好みに合わせる

コントロールパネルとは 138
ディスプレイの設定を変更する .. 139
アクティブデスクトップをWindows 2000のデスクトップ画面からはずす 151
ウィンドウのデザインを変更する 152
音質の設定を変更する 153

困ったときは

トラブルを解決するには 156
主なトラブルとその解決方法 157
「Q&A Search」を使って トラブルを解決する 168

その他

リカバリ CDで本機を再セットアップする 170
パーティションサイズを変更する 173
使用上のご注意 175
お手入れ 179
保証書とアフターサービス 181
電話回線のコンセントの種類 183
動画系ソフトウェア入出力データ相関表 184
索引 187

⚠警告

火災　感電

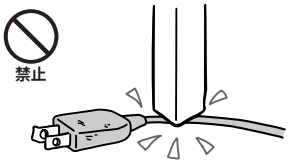
下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

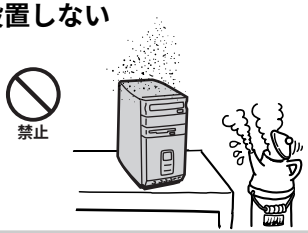
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



内部に水や異物を入れない

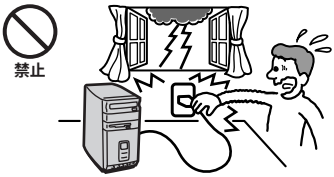
水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。

むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたりメモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。

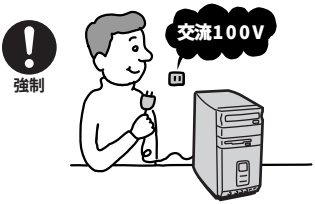
雷が鳴り出したらテレホンコードや電源プラグに触らない

感電の原因になります。



本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

NETWORK（ネットワーク）コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

本機のNETWORK（ネットワーク）コネクタに下記のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

⚠警告 **下記の注意事項を守らないと、**
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

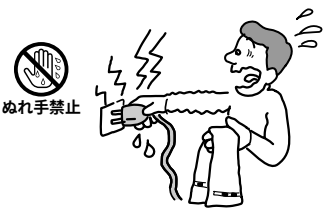
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

⚠注意 **下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。**

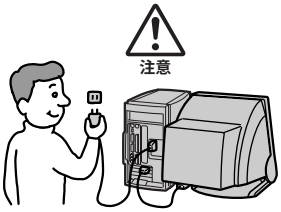
ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

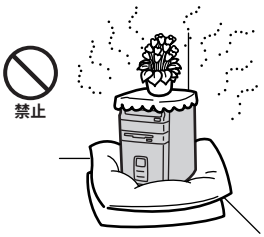
アース線を接続する

アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

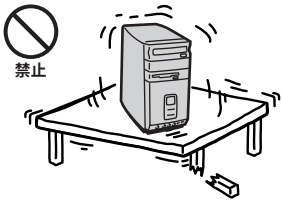
- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。



⚠注意 **下記の注意事項を守らないと<u>けが</u>をしたり周辺の<u>物品</u>に<u>損害</u>を与えたりすることがあります。**

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。



運搬時は慎重に

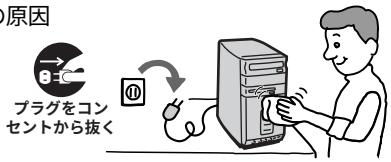
コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。

製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

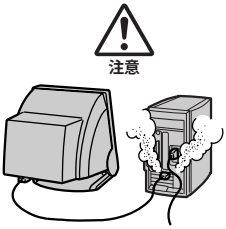


移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

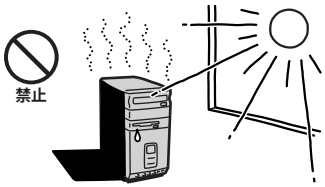
コネクタはきちんと接続する

- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。



直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



電池についての安全上のご注意

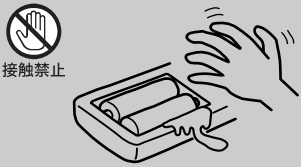
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

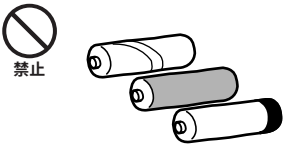
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

⚠注意

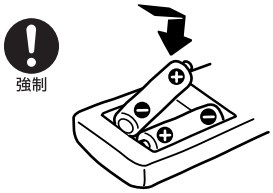
市販のアルカリまたはマンガン電池（単三型）以外の電池をリモコンに使わない、新しい電池と使用した電池
または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



+と–の向きを正しく入れる

+と–を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の章で構成されています。
また、本機にどのようなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「ご確認ください」をご覧ください。

❑ 操作編

本機を初めてお使いになるときは、「基本的な使いかた」（30ページ）からお読みください。特にコンピュータを初めてお使いになる方は「マウスを使う」（34ページ）や「キーボードを使う」（39ページ）、「文字を入力する」（49ページ）をお読みになり、コンピュータの基本的な使いかたをマスターすることをおすすめします。

一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」（74ページ）をご覧ください。

❑ 拡張編

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器やプリンタなどの周辺機器のつなぎかた、また本機の拡張のしかたについて説明しています。

❑ セットアップ編

本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更する方法を説明しています。

❑ 困ったときは

本機の操作がわからなかったり、本機がうまく動作しないときにお読みください。トラブルの解決方法を説明しています。

❑ その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

本書に記載されている画面について

本書で使われている画面は実際のものと異なる場合があります。

本機の使いかたがわからないときに

オンラインマニュアルの使いかた

この取扱説明書の内容や本機に付属のソフトウェアの取扱説明書、内蔵モデムについての情報は、オンラインマニュアル*として本機のデスクトップ画面上でお読みいただけます。
また、本機に付属しているソフトウェアによっては、ヘルプをデスクトップ画面上でお読みいただけます。
＊PDF（Portable Document Format）のファイルで付属しています。

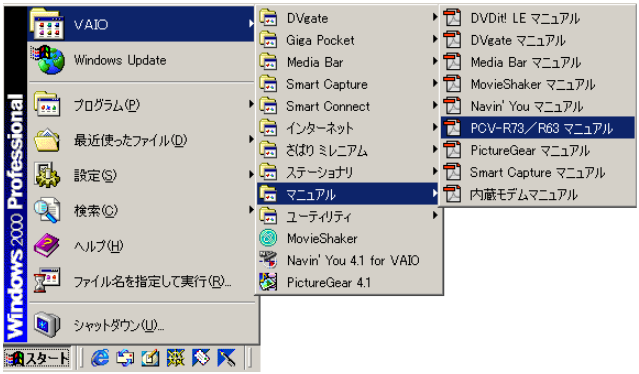
デスクトップ画面とは

本機の電源を入れた後、ディスプレイ画面全体に表示されるのが「デスクトップ画面」です。「デスクトップ画面」は、本機のさまざまな機能を使いこなしていただくときの出発点となります。

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

デスクトップ画面左下の をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、読みたいオンラインマニュアルをクリックする。

ここでは、この取扱説明書の内容を表示させてみます。



本機に付属の「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し、この取扱説明書の内容が表示されます。

次のページにつづく

「Adobe Acrobat Reader」を初めて起動したときは

「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されますので、契約書の内容を読み、同意する(A) をクリックしてください。

オンラインマニュアルの見かた

サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときは、 をクリックし、それぞれのタブをクリックします。詳しくは、「Adobe Acrobat Reader」の ヘルプ(H) をクリックしてヘルプをご覧ください。

Windows 2000のヘルプの使いかた

Microsoft® Windows® 2000 Professional（以降、Windows 2000と略します）の操作のしかたや設定の変更についての情報を検索できます。

Windows 2000のヘルプを見るには

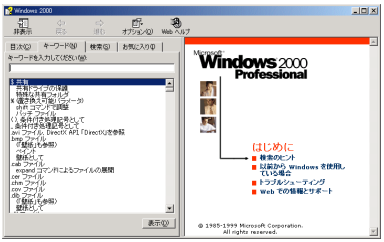
Windows 2000のヘルプを見るには本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

ヘルプとは

「ヘルプ」とはWindows 2000やソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

デスクトップ画面左下の「スタート」をクリックして、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックする。

ヘルプが表示されます。



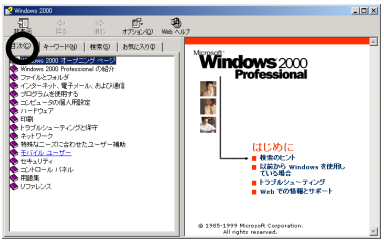
ヘルプの見かた

表示される「目次」、「キーワード」、「検索」のいずれかのタブをクリックして、知りたい情報を検索します。

「目次」で検索する

ヘルプの目次を通じて、知りたい情報を参照できます。

「目次」で検索するには、［目次］タブをクリックし、表示される項目にある をクリックして知りたい情報を表示させます。

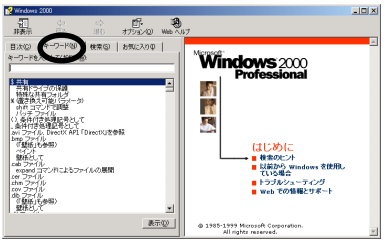


次のページにつづく

「キーワード」で検索する

入力した語句に該当する項目を表示させます。

「キーワード」で検索するには、［キーワード］タブをクリックし、表示される入力欄に知りたい情報についてのキーワードを入力し、キーボードの Enter （エンター）キーを押します。



「検索」で検索する

特定の語句が含まれている項目について幅広く検索できます。

また、複数の語句を組み合わせることによりより効率良く検索することもできます。

「検索」で検索するには、［検索］タブをクリックし、表示される入力欄にキーワードを入力し、キーボードの Enter （エンター）キーを押します。

各ソフトウェアのヘルプを見る

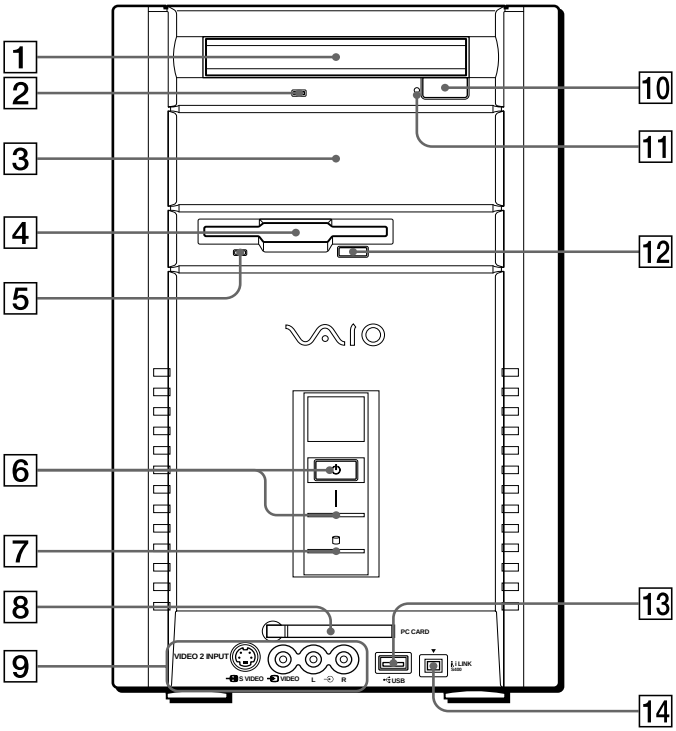
本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

別冊の「ご確認ください」には、ソフトウェアの使いかたがわからなくなったときのために、各ソフトウェアにつき「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

各部の名称と働き

詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。

前面



1 CD-RW**ドライブ（57、63ページ）**
CD-ROMのデータを読み込んだり、CD-RW／CD-Rにデータを書き込んだりします。

2 CD-RW**ドライブアクセスランプ（58ページ）**
CD-ROM、CD-RW、CD-Rのデータを読み込んだり、書き込んだりするときにオレンジ色に点灯します。

3 **拡張デバイスベイ（131ページ）**
DVD-ROMドライブやZIPドライブなどのデバイスを増設できます。

4 **フロッピーディスクドライブ（67ページ）**
3.5インチのフロッピーディスクにデータを読み込んだり、書き込んだりします。

次のページにつづく

5 **フロッピーディスクドライブアクセスランプ**（68**ページ**）
フロッピーディスクにデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

6 ⏻（**電源**）**ボタンと電源ランプ**（30**ページ**）
本機の電源を入れるときに押します。電源が入っている間は、電源ランプが緑色に点灯します。
本機の動作中にこのボタンを押すと、スタンバイモードに入り、電源ランプがオレンジ色に点灯します。

7 **ランプ（ハードディスクアクセスランプ）**
ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときにオレンジ色に点灯します。

8 PC CARD（PC**カード**）**スロット**（87、116**ページ**）
メモリカードなどのPCカードからデータを読み込むことができます。ソニー製“メモリースティック”用PCカードアダプターMSAC-PC2Nなどを取り付けると、“メモリースティック”を使って“メモリースティック”対応機器とデータのやりとりができます。

9 VIDEO 2 INPUT（**映像入力**2）**コネクタ**（100**ページ**）
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。
S VIDEO（S**映像入力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力コネクタとつなぎます。VIDEOコネクタから入力された映像に比べ、よりきれいな映像を本機で見たり録画することができます。
VIDEO（**映像入力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの映像出力コネクタとつなぎます。映像を本機で見たり録画するときに使います。
L/R（**音声入力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力コネクタとつなぎます。

10 CD-RW**イジェクトボタン**（58**ページ**）
CD-RWドライブのトレイを引き出すときに押します。

11 **マニュアルイジェクト穴**（60**ページ**）
CD-RWイジェクトボタンを押してもディスクを取り出せないときに使います。

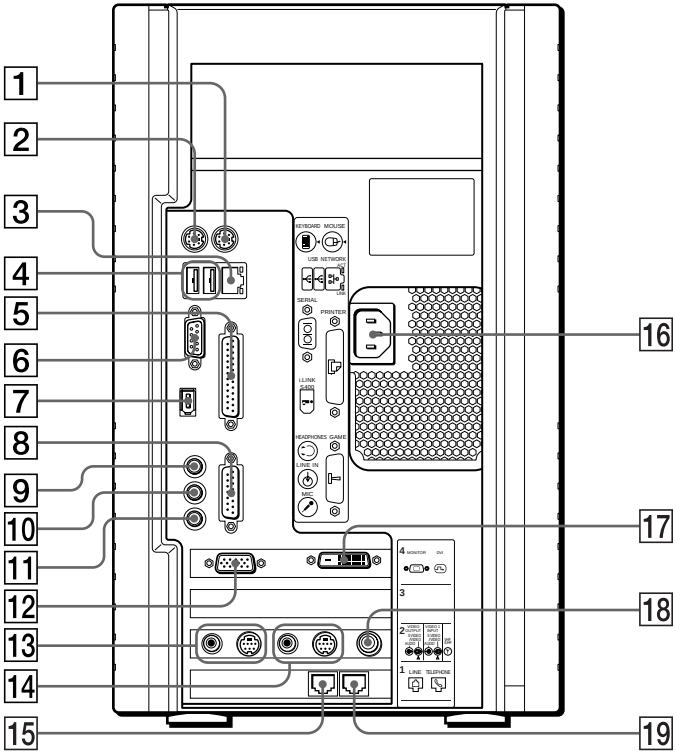
12 **フロッピーディスクイジェクトボタン**（68**ページ**）
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

13 USB**コネクタ**（107**ページ**）
USB規格に対応した機器をつなぎます。

14 i.LINK S400**コネクタ**（4**ピン**）（92**ページ**）
i.LINK対応機器をつなぎます。

i.LINKとは？
i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。i.LINKについて詳しくは、94ページをご覧ください。

後面



1 MOUSE（**マウス**）**コネクタ**
付属のマウスをつなぎます。

2 KEYBOARD（**キーボード**）**コネクタ**
付属のキーボードをつなぎます。

3 NETWORK（**ネットワーク**）**コネクタ**（88**ページ**）
ネットワーク（LAN）とつなぎます。

ご注意

NETWORKコネクタには指定以外のネットワークや電話回線を接続しないでください。

4 USB**コネクタ**（107**ページ**）
USB規格に対応した機器をつなぎます。

5 PRINTER（**プリンタ**）**コネクタ**（106**ページ**）
別売りのプリンタやスキャナなどをつなぎます。

6 SERIAL（**シリアル**）**コネクタ**
SERIALコネクタを持った機器をつなぎます。

次のページにつづく

7 i.LINK S400**コネクタ（6ピン）**（92**ページ**）
i.LINK対応機器をつなぎます。

8 GAME（**ゲーム**）**コネクタ**（108**ページ**）
ジョイスティックやMIDI機器をつなぎます。

9 HEADPHONES（**ヘッドホン**）**コネクタ**
別売りのスピーカーやソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200などのヘッドホンコネクタとつなぎます。

10 LINE IN（**ライン入力**）**コネクタ**
オーディオ機器とつなぎます。

11 MIC（**マイクロホン**）**コネクタ**
別売りのモノラルマイクをつなぎます。

12 MONITOR（**モニタ**）**コネクタ**
ディスプレイをつなぎます。

ご注意

MONITORコネクタにディスプレイをつなぐときは、DVIコネクタに15型TFT液晶デジタルディスプレイPCVA-15XD1はつながないでください。

13 VIDEO OUTPUT（**映像出力**）**コネクタ**（100**ページ**）
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。
S VIDEO／VIDEO（S**映像**／**映像出力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像入力コネクタとつなぎます。本機で再生した動画を、よりきれいな画質で録画することができます。
付属のビデオ接続用変換コネクタを使うことにより、映像出力コネクタとして使用することもできます。

AUDIO（**音声出力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声入力コネクタとつなぎます。

14 VIDEO 1 INPUT（**映像入力**）**コネクタ**（100**ページ**）
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどをつなぎます。
S VIDEO／VIDEO（S**映像**／**映像入力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどのS映像出力コネクタとつなぎます。よりきれいな映像を本機で見たり録画することができます。
付属のビデオ接続用変換コネクタを使うことにより、映像入力コネクタとして使用することもできます。

AUDIO（**音声入力**）:
ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどの音声出力コネクタとつなぎます。

15 LINE（**電話回線**）**ジャック**
壁の電話回線とつなぎます。

16 AC INPUT（AC**電源入力**）**プラグ**
付属の電源コードをつなぎ、電源コンセントにつなぎます。

17 DVI**コネクタ**
15型TFT液晶デジタルディスプレイPCVA–15XD1をつなぎます。

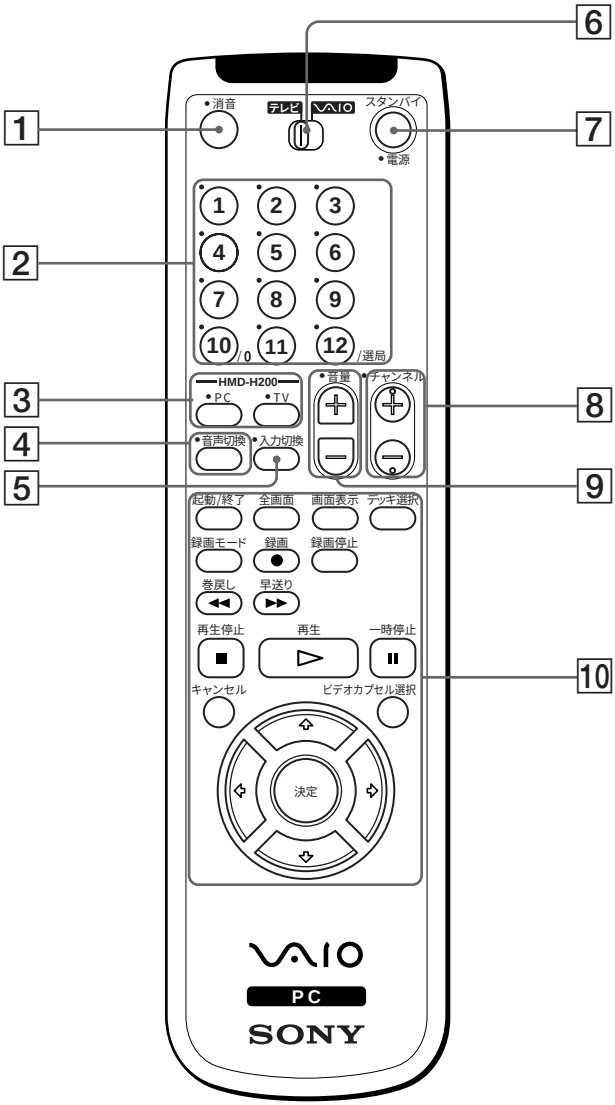
ご注意

DVIコネクタにPCVA-15XD1をつなぐときは、MONITORコネクタにディスプレイをつながないでください。

18 VHF／UHF（**アンテナ**）**コネクタ**（74、104**ページ**）
アンテナをつなぎます。

19 TELEPHONE（**電話機**）**ジャック**
電話機をつなぎます。

リモコン


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
消音
テレビ
スタンバイ
電源
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
0
11
12
/選局
HMD-H200
PC
TV
音量
チャンネル
音声切換
入力切換
起動/終了
全画面
画面表示
デッキ選択
録画モード
録画
録画停止
巻戻し
早送り
再生停止
再生
一時停止
キャンセル
ビデオカプセル選択
決定
PC
SONY

リモコンボタンのモード別機能一覧

リモコンで操作できるモードには、以下の2つがあります。

テレビモード：本機につないだHMD-H200またはテレビを操作するモード

VAIO**モード**：付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを操作するモード

テレビ／VAIO切り換えスイッチで、テレビモードとVAIOモードを切り換えた場合、それぞれのボタンの機能は以下の表のように変わります。

ちょっと一言

テレビモードで使えるボタンには、ボタン名の横に黄色い小さな丸がついています。

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
1 **消音ボタン (77ページ)**	一時的に音を消します。もう一度押すか、音量ボタンを押すと音が出ます。	一時的に音を消します。もう一度押すか、音量ボタンを押すと音が出ます。
2 **チャンネル数字ボタン (76ページ)**	チャンネルを選択します。	チャンネルを選択します。
3 HMD-H200	本機にソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200をつないだとき、HMD-H200の映像入力を切り換えます。 **ご注意** 3のボタンは、お買い上げ時はHMD-H200を操作できるように設定されています。ただし、リモコン信号がHMD-H200以外のテレビに設定されている（27ページ）と使えません。	使用できません。
•PC**ボタン**	コンピュータの画面を見るときに押します。	使用できません。
•TV**ボタン**	テレビを見るときに押します。	使用できません。
4 **音声切換ボタン (77ページ)**	二カ国語放送などの音声を切り換えるときに押します。	二カ国語放送などの音声を切り換えるときに押します。

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
5 **入力切換ボタン（77ページ）**	外部入力された映像に切り換えるときに押します。ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200を操作する場合は、このボタンを押すと「VIDEO」に切り換わります。	本機につないだビデオデッキやデジタルビデオレコーダーなどのi.LINK対応機器からの入力を以下のように切り換えるときに押します。 → VIDEO 1 → VIDEO 2 INPUT（後面） INPUT（前面） i.LINK ←
6 **テレビ／VAIO切り換えスイッチ**	リモコンの操作モードをVAIOモードに切り換えます。	リモコンの操作モードをテレビモードに切り換えます。
7 **電源／スタンバイボタン**（32、77ページ）	テレビの電源を入／切します。	本機の動作中にこのボタンを押すと、スタンバイモードに入ります。詳しくは、32ページおよび付属の「省電力機能について」をご覧ください。 **ご注意** このボタンを押して、本機の電源を入れることはできません。
8 **チャンネルボタン（76ページ）**	テレビのチャンネルを選択します。	テレビのチャンネルを選択します。
9 **音量ボタン（76ページ）**	テレビの音量を調整します。	音量を調整します。 **ご注意** 本機につないだディスプレイやスピーカーで調整した音量以上の大きさにはなりません。
10 **「Giga Pocket」ソフトウェアボタン**		
• **起動/終了ボタン**	使用できません。	「Gigaビデオレコーダー」を起動します。もう一度押すと、「Gigaビデオレコーダー」が終了します。
• **全画面ボタン**	使用できません。	「Gigaビデオレコーダー」を全画面表示します。もう一度押すと、全画面表示が終了し、「Gigaビデオレコーダー」が元の大きさで表示されます。

次のページにつづく

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
•画面表示ボタン	使用できません。	全画面表示のときに、テレビ／録画側のビデオデッキと再生側のビデオデッキを表示します。もう一度押すと、テレビ／録画側のビデオデッキと再生側のビデオデッキの映像が消えます。
•デッキ選択ボタン	使用できません。	テレビ／録画側のビデオデッキと再生側のビデオデッキを切り換えます。
•録画モードボタン	使用できません。	以下のように録画モードを切り換えます。 **ビデオCD → 標準 → 高画質**
•録画ボタン	使用できません。	テレビ／録画側のビデオデッキで見ているテレビ番組を録画します。
•録画停止ボタン	使用できません。	テレビ／録画側のビデオデッキで見ているテレビ番組の録画を停止します。
•巻戻しボタン	使用できません。	ビデオカプセルを再生しながら巻き戻しをします。
•早送りボタン	使用できません。	ビデオカプセルを再生しながら早送りをします。
•再生停止ボタン	使用できません。	再生側のビデオデッキに表示されているビデオカプセルの再生を停止します。
•再生ボタン	使用できません。	再生側のビデオデッキに表示されているビデオカプセルを再生します。
•一時停止ボタン	使用できません。	再生側のビデオデッキに表示されているビデオカプセルの一時停止をします。
•キャンセルボタン	使用できません。	エラーメッセージなどが表示された画面を閉じます。全画面表示しているときは元の大きさに戻ります。
•ビデオカプセル選択ボタン	使用できません。	ビデオカプセル選択画面を表示します。もう一度押すと選択画面は消えます。

ボタン名	テレビモード	VAIOモード
• **上下左右ボタン（↑／↓／←／→）**	使用できません。	ビデオカプセル選択画面で、キャビネットやビデオカプセルを上下左右に選びます。
• **決定ボタン**	数字ボタンと組み合わせて使うと、リモコン信号を各社の設定に変更できます。（27ページ）	ビデオカプセルを選びます。

ちょっと一言

⑩「Giga Pocket」ソフトウェア専用ボタンの使いかたについて詳しくは、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

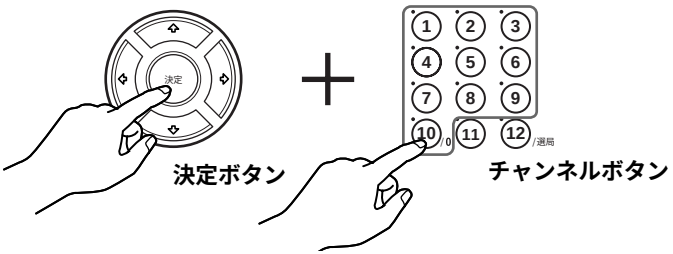
リモコンで各社のテレビを操作するには

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のリモコンでテレビのチャンネルや音量、電源を操作できます。お買い上げ時は、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200を操作できるよう設定されています。

設定するには、リモコンの決定ボタンを押しながら、チャンネル数字ボタンを押します。

例：テレビのメーカーを「ソニー（01）」に合わせる場合

決定ボタンを押しながら ⑩0 ボタンと ① ボタンを順番に押します。



ご注意

⑪ ボタンと ⑫ ボタンは設定に使うことはできません。「12」と入れるときには、決定ボタンを押しながら、① ボタンと ② ボタンを押します。

次のページにつづく

テレビのメーカー番号は次の表の通りです。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー（Ⓡマーク付き）	01
松下電器1*	02
東芝	03
日立製作所	04
三菱電機	05
日本ビクター	06
三洋電機1*	07
シャープ1*	08
NEC	09
パイオニア**	10
富士通ゼネラル	11
ソニー（Ⓡマーク無し）**	12
松下電器2*	13
フナイ(PRECIOUS)	14
三洋電機2*	15
シャープ2*	16
アイワ	17
三星(SAMSUNG)	18
HMD-H200	19（お買い上げ時の設定）

＊　メーカー番号（02、07、08）で操作できないときは同じメーカーのもう1つの番号（13、15、16）にしてください。

＊＊ 入力切換ボタンは使えません。

ご注意

- テレビによっては、メーカー番号を合わせても操作できなかったり、一部のボタンが使えないことがあります。
- リモコンの乾電池を交換したときは、リモコンのテレビ／VAIO切り換えスイッチを「テレビ」に切り換え、テレビのメーカー番号を合わせ直してください。

操作編

基本的な使いかた 30

VAIOを使いこなす 74

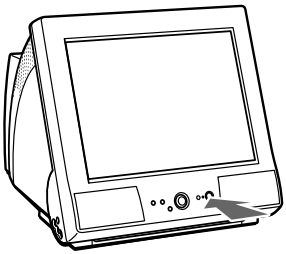
電源を入れる

電源を入れる前に確認してください

- ディスプレイ、キーボード、マウスが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください。（68ページ）

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続／準備する」をご覧ください。

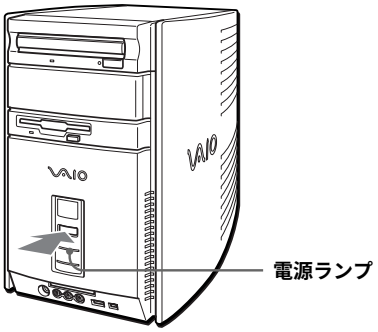
1 ディスプレイの電源スイッチを押す。



2 本機の ⏻（電源）ボタンを押す。

本機の電源が入り、電源ランプが緑色に点灯し、Windows 2000が起動します。

初めて電源を入れたときは、Windows 2000のセットアップ画面が表示されます。Windows 2000のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」をご覧ください。



2回目以降に電源を入れたときは「Windowsのログオン」画面が表示されます。

ご注意

4秒以上⏻（電源）ボタンを押したままにすると、電源は切れてしまいます。

3 管理者権限（Administrators）のユーザー名とパスワードを入力して OK をクリックする。

Windows 2000が起動します。

ご注意

ユーザー名とパスワードは忘れないようにご注意ください。

電源を切る

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

次のページにつづく

2 メニューの［シャットダウン］をクリックする。

「Windowsのシャットダウン」画面が表示されます。

3 ▼をクリックして、一覧の中から「シャットダウン」を選び、OK をクリックする。

しばらくすると本機の電源が自動的に切れ、電源ランプが消灯します。

ご注意

本機の電源を切った後、10秒間は電源を入れないでください。

「スタート」メニューから［シャットダウン］を選んでも電源が切れないときは

以下の操作を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- PCカードをお使いの場合は、「PCカードを取り出すには」（119ページ）の手順に従ってPCカードを取り出す。
- USB機器を接続しているときは、取りはずす。

それでも電源が切れないときは、「困ったときは」の「電源」（158ページ）をご覧ください。

一時的に作業を中断するときは

次の操作で、一時的にシステム全体の動作を停止することができます（スタンバイモード）。このとき、本機前面の電源ランプはオレンジ色に点灯します。席をはずすなどして、しばらく作業を中断するときに便利です。

- キーボードの☾（スタンバイ）キーを押す。
- リモコンの電源／スタンバイボタンを押す。
- 本機前面の⏻（電源）ボタンを押す。
- 「スタート」メニューから［シャットダウン］を選んで表示される「Windowsのシャットダウン」画面で▼をクリックして「スタンバイ」を選ぶ。

通常の動作モードに戻すには、キーボード上のスペースキーを押すか、本機前面の⏻（電源）ボタンを押します。

本機には2つのスタンバイモードが用意されています。モードの切り換え操作について詳しくは、付属の「省電力機能について」をご覧ください。

ご注意

本機がスタンバイモードに入っているときは、通信ソフトウェアを使ってファックスを送受信することはできません。

再起動する

本機の設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要がある場合があります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの［シャットダウン］をクリックする。

「Windowsのシャットダウン」画面が表示されます。

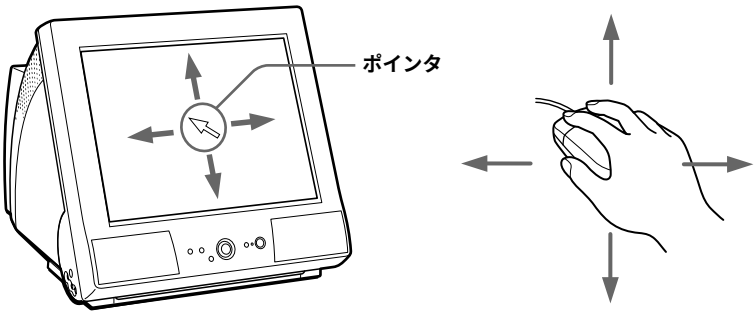
3 をクリックして、一覧の中から「再起動」を選び、 OK をクリックする。

「お待ちください」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

4 管理者権限（Administrators）のユーザー名とパスワードを入力して OK をクリックする。

マウスを使う

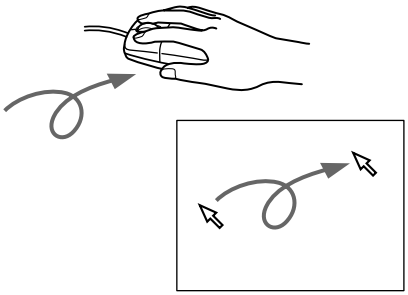
ここではマウスの使いかたを説明します。
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインタも同じ方向に移動します。



ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン／右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

マウスを動かす

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。



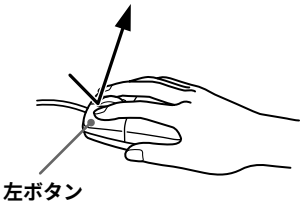
ポイントする

ポインタを希望の位置に合わせることです。メニューを選ぶときなどに使います。

クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

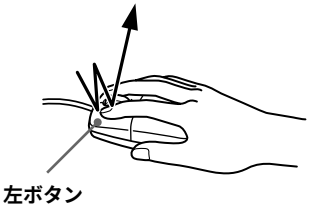
OKやキャンセルなどのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



ダブルクリックする

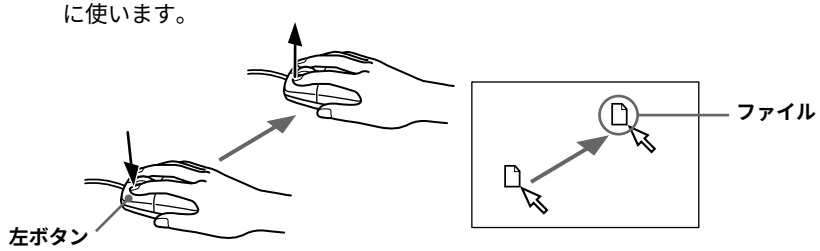
左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。



ドラッグする

左ボタンを押して、そのまま希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

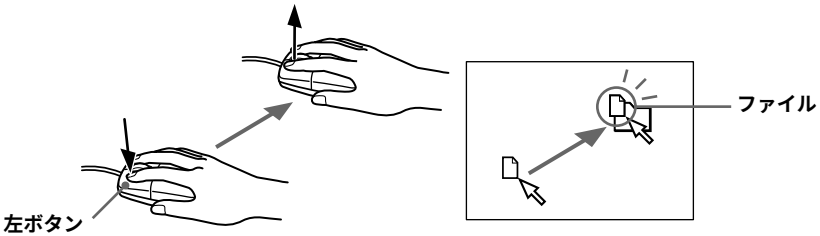


ドラッグアンドドロップする

ファイルのアイコンなどをドラッグしてフォルダやソフトウェアのアイコン、ウィンドウなどの上でボタンを離すことです。

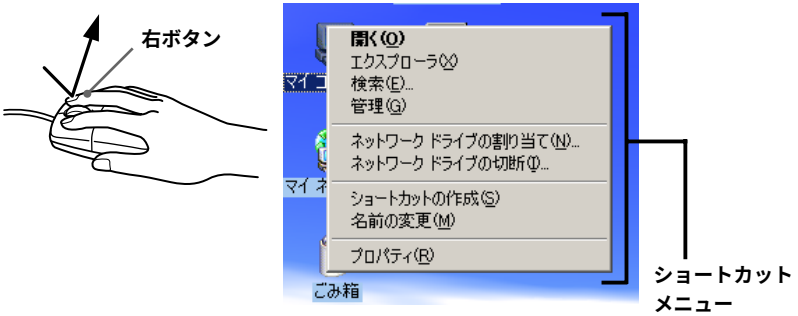
ファイルをフォルダのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、そのファイルをフォルダやウィンドウの中に移動またはコピーすることができます。

ファイルをソフトウェアのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、ソフトウェアでそのファイルを開くことができます。



右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。



ホイールボタンの使いかた

ホイールボタンを使うことによって、スクロール、オートスクロール、ズームなどの操作ができます。

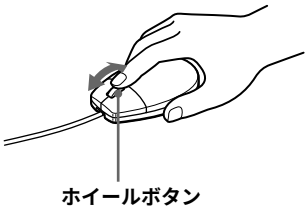
ご注意

お使いになるソフトウェアによっては動作が異なったり、機能しないものがあります。

スクロールする

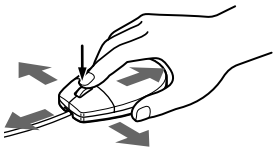
ウィンドウ上で上下スクロールバーが表示されているときに、ホイールボタンを転がすと、画面が上下して表示されていない情報を見ることができます。

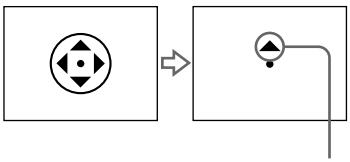
また、上下スクロールバーをポイントし、ホイールボタンを転がして上下にスクロールすることもできます。



パンする

ホイールボタンを押しながらマウスを動かして、画面を上下左右に動かすことです。





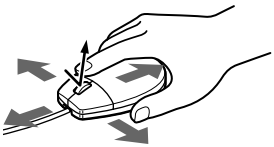
ちょっと一言

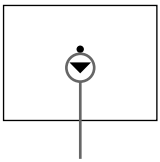
お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもパンすることができます。

オートスクロールする

ホイールボタンを押してすぐ離し、マウスを動かして自動的に画面を動かすことです。

カーソルを元に戻す場合は、ホイールボタンをもう1度押すか、左または右ボタンをクリックします。





画面が動く方向を示す

ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもオートスクロールすることができます。

ズーム／データズームする

ズームする

キーボードの[Ctrl]（コントロール）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ画面を拡大したり縮小することです。

データズームする

キーボードの[Shift]（シフト）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ上のデータを上または下の階層に切り換えることです。

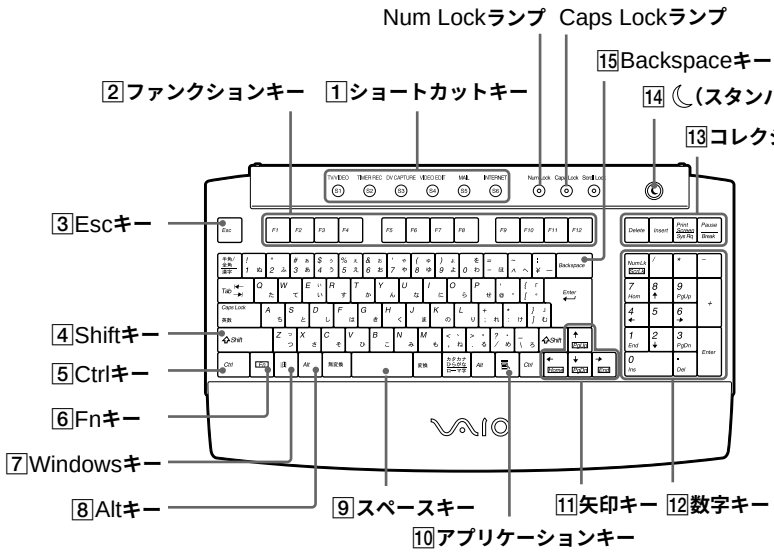
ご注意

この機能はMicrosoft Office 97と互換性のあるプログラムでのみ働きます。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、コンピュータへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」(49ページ) をご覧ください。



なまえ	機能
1 ショートカットキー (S1) (S2) (S3) (S4) (S5) (S6)	各キーに割り当てられたソフトウェアを起動するときに押します。各キーに割り当てられたソフトウェアについて詳しくは「ショートカットキーの機能」(43ページ) をご覧ください。
2 ファンクションキー F1 〜 F12	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属の各ソフトウェアの取扱説明書またはWindows 2000のヘルプをご覧ください。
3 Esc (エスケープ) キー Esc	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

次のページにつづく

なまえ	機能
4 Shift（シフト）キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。キーボード右上のCaps Lock（キャプス・ロック）ランプがついている状態で、文字キーと同時に押した場合は、小文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
5 Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属の各ソフトウェアの取扱説明書またはWindows 2000のヘルプをご覧ください。 例） Ctrl キーを押しながら、S と キーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
6 Fn（エフエヌ）キー	キーボード上で□で囲まれている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。 詳しくは「Fnキーとの組み合わせと機能」（47ページ）をご覧ください。
7 Windows（ウィンドウズ）キー	Windows 2000の「スタート」メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（48ページ）およびWindows 2000のヘルプをご覧ください。
8 Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。 使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは付属の各ソフトウェアの取扱説明書またはWindows 2000のヘルプをご覧ください。
9 スペースキー	文字を入力しているとき、このキーを押すと、スペースを挿入できます。

なまえ	機能
10 アプリケーションキー	マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。
11 矢印キー	画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。Fnキーと組み合わせて使うと、PgUp（ページアップ）キーやPgDn（ページダウン）キーなどとして使えます。詳しくは、「Fnキーとの組み合わせと機能」（47ページ）をご覧ください。
12 数字キー	Num LkScr Lk（ナム・ロック）キーを押し、キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが点灯しているときは、数字を入力できます。消灯しているときは、矢印キーなど、キーの表面左側に印刷されている機能と同じ働きをします。
13 コレクションキー	キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが消灯しているときは、数字キーの一部もコレクションキーとして使えます。
• Delete（デリート）キー	画面のカーソル上の文字を消すときに押します。
• Insert（インサート）キー	文字入力のモードを切り換えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとに、画面上のカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするかが切り換わります。
• Print Screen／Sys Rq（プリントスクリーン／システムリクエスト）キー	デスクトップ画面全体を画像として本機に取り込みます。Alt（オルト）キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブなウィンドウを取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。

アクティブなウィンドウとは

デスクトップ画面上に表示されているウィンドウの中で最前面に表示されているウィンドウはタイトルバー（ウィンドウの上の部分）が青い色になります。この最前面に表示されているウィンドウのことを「アクティブなウィンドウ」と言います。

次のページにつづく

なまえ	機能
• Pause／Break（ポーズ／ブレイク）キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 Ctrl（コントロール）キーを押しながらこのキーを押すと、Breakキーとして働きます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
14スタンバイキー	本機のシステム全体の動きを一時的に停止します（スタンバイモード）。
15Backspace（バックスペース）キー	画面上のカーソルキーの左の文字を消すときに押します。

キーボードショートカット

メニューを開かなくても、キーボードから各種コマンドを実行できます。

ショートカットキーの機能

各キーに割り当てられたソフトウェアを起動するときに押します。
各キーに割り当てられているソフトウェアは以下のとおりです。

なまえ	機能
S 1キー（TV/VIDEO）(S1)	「Giga Pocket」ソフトウェアの「Gigaビデオレコーダー」を起動します。
S 2キー（TIMER REC）(S2)	「Giga Pocket」ソフトウェアの「予約ウィザード」を起動します。
S 3キー（DV CAPTURE）(S3)	「DVgate Motion」ソフトウェアを起動します。
S 4キー（VIDEO EDIT）(S4)	「Adobe Premiere」ソフトウェアを起動します。（PCV-R73K） 「Adobe Premiere LE」ソフトウェアを起動します。（PCV-R63K）
S 5キー（MAIL）(S5)	「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。
S 6キー（INTERNET）(S6)	「VAIOホームページ」が表示されます。

ご注意

S5キーとS6キーを使うには、インターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「カスタマー登録する／インターネットに接続する」および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

ショートカットキーへ割り当てられているソフトウェアを変更するには

お買い上げ時にショートカットキーに割り当てられているソフトウェアを、付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使って、好みのソフトウェアが起動するように変更できます。

ここでは、(S1)キーを押すと「オンラインマニュアル」(この取扱説明書の内容)が起動するようにしてみます。

1 デスクトップ画面右下の をダブルクリックする。

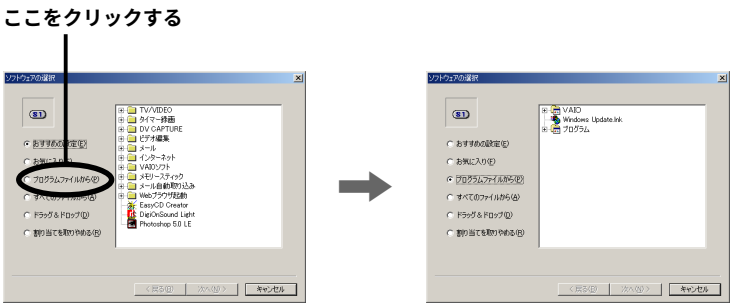
「ソフトウェア一覧」画面が表示されます。

2 (S1)をクリックする。

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

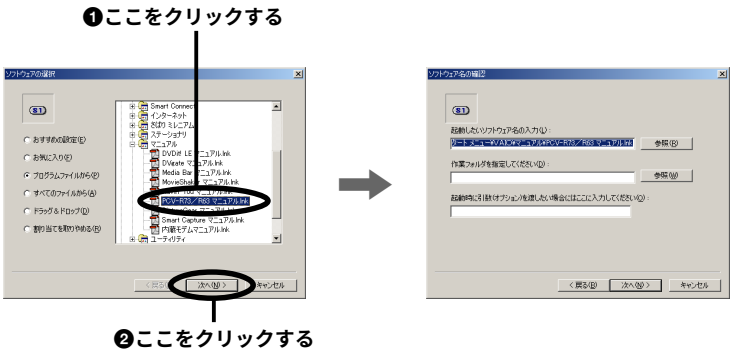
3 **［プログラムファイルから］をクリックする。**

本機に付属しているソフトウェアなどのリストが右側に表示されます。



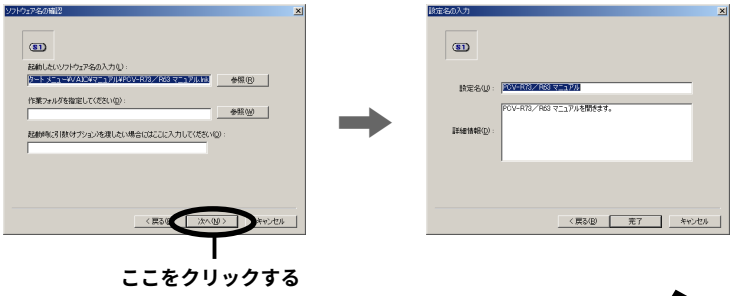
4 **［VAIO］、［マニュアル］の順にダブルクリックし、［PCV-R73/R63マニュアル.lnk］をクリックしてから 次へ(N) > をクリックする。**

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。



5 **次へ(N) > をクリックする。**

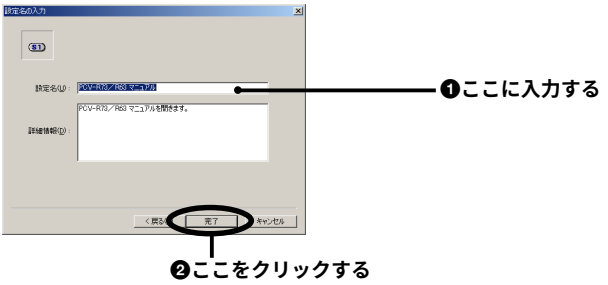
「設定名の入力」画面が表示されます。



次のページにつづく

6 **「設定名」と「詳細情報」を入力してから 完了(F) をクリックする。**

これで設定は完了です。キーボードの(S1)キーを押すと「オンラインマニュアル」が起動します。

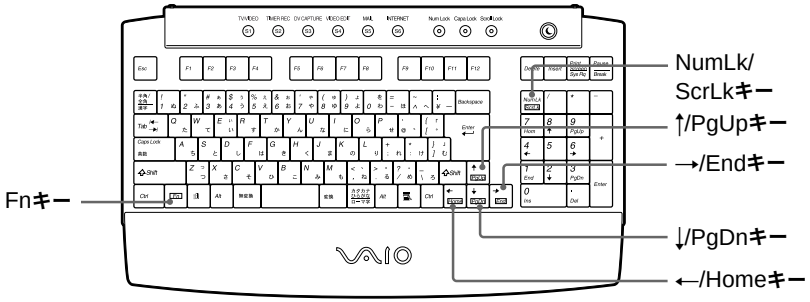


「VAIO Action Setup」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

ちょっと一言

ショートカットキーへのソフトウェアの割り当てを変更したときのために、本機にはショートカットキー用のテンプレートが付属しています。新しく割り当てたソフトウェア名をペンでテンプレートに記入し、ショートカットキーの上に置くと、新しい割り当てを忘れずにすみます。

Fnキーとの組み合わせと機能

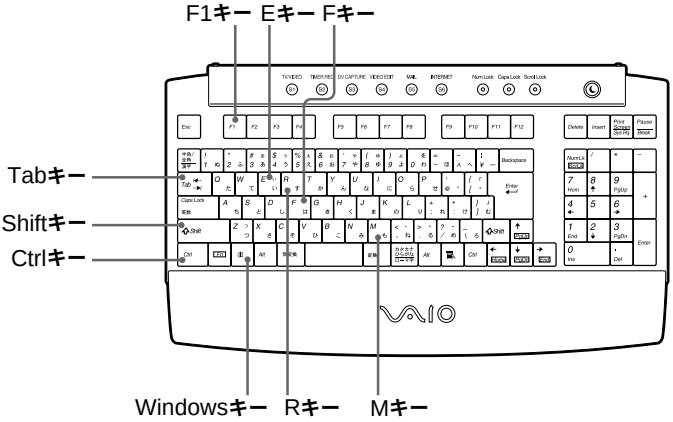


キー操作の表記

例：Fn＋NumLk ➡ Fnキーを押しながらNumLkキーを押す。

組み合わせ	機能
Fn＋NumLk ➡ ScrLk （スクロール・ロック）キー Fn ＋ NumLk ScrLk	ScrLk（スクロール・ロック）キーとして働きます。 使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Fn＋↑ ➡ PgUp （ページアップ）キー Fn ＋ PgUp	PgUp（ページアップ）キーとして働きます。 現在表示している画面の前のページを表示します。
Fn＋→ ➡ End （エンド）キー Fn ＋ End	End（エンド）キーとして働きます。 行の最後にカーソルを移動します。
Fn＋↓ ➡ PgDn （ページダウン）キー Fn ＋ PgDn	PgDn（ページダウン）キーとして働きます。 現在表示している画面の次のページを表示します。
Fn＋← ➡ Home （ホーム）キー Fn ＋ Home	Home（ホーム）キーとして働きます。 行の先頭にカーソルを移動します。

Windows**キーとの主な組み合わせと機能**



キー操作の表記

例：⊞ +F ➡ Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	**機能**
⊞ +F1	Windows 2000のヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り替えます。
⊞ +E	エクスプローラ*を表示します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の「検索」画面を表示します。［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の「検索」画面を表示します。［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示されているすべての画面を最小化します。
Shift+⊞ +M	最小化されているすべての画面を元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。［スタート］メニューから「ファイル名を指定して実行…」を選んだときと同じです。

* コンピュータの内容（ファイルやフォルダ）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピュータのどこに保存されているか、一目で確認できます。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」ソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

ちょっと一言

キーボード上の特殊なキーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（39ページ）をご覧ください。

日本語入力のまえに

ここでは、「ワードパッド」ソフトウェアを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、「ワードパッド」ソフトウェアを起動します。

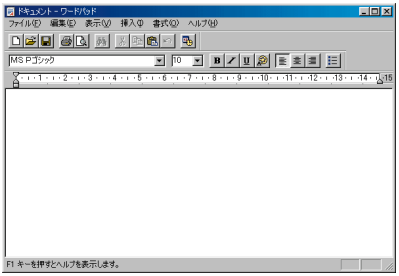
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

次のページにつづく

2 メニューの［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］から［ワードパッド］をクリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面に「ワードパット」ソフトウェアの画面が表示されます。



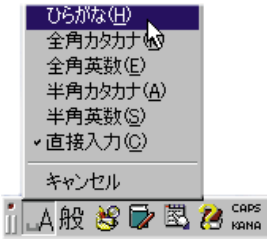
2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
入力したい文字に応じて、デスクトップ画面右下に表示されている「MS-IME」のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。

MS-IME**ツールバー**

1 デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバーの［␣A］をクリックする。

文字入力選択メニューが表示されます。



2 メニューの［ひらがな］をクリックする。

ツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。

［␣A］**から［あ］に変わる。**

MS-IMEツールバーが表示されていないときは

デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をクリックし、表示されたメニューの中から［ツールバーを表示］をクリックします。

MS-IMEツールバーについて詳しくは、Windows 2000のヘルプをご覧ください。

タスクトレイとは

デスクトップ画面右下の部分のことです。本機を起動したときに自動的に使えるようになったWindows 2000の機能がここに表示されています。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つまたは3つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換えるには

MS-IMEツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながら、Caps Lock／英数）キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力

KANAの文字が押された状態

［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら、Caps Lock／英数キーを押す。

ローマ字入力

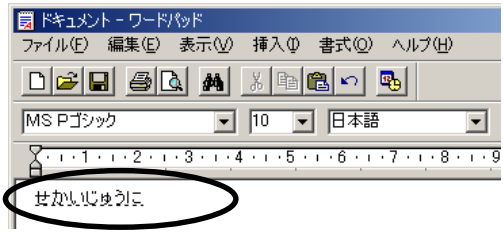
KANAの文字が押されていない状態

文字入力を練習する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったソニーVAIO」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。

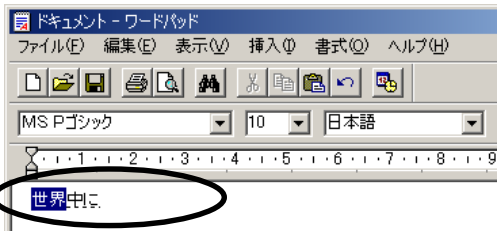
かな入力の場合

せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shift（シフト）キーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソル（画面上で点滅している「I」のこと）が文字の入力位置に動きます。

2 （スペース）キーを押す。

入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
間違った漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、スペースキーを押します。

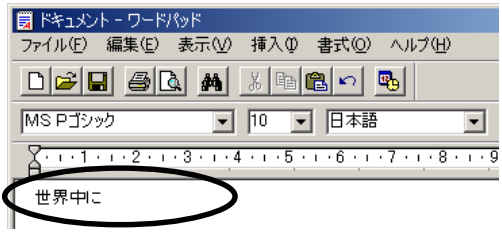


ちょっと一言

「き」など同音異義の漢字がたくさんある場合は、変換候補が表示されるまでスペースキーを押しつづけます。

3 Enter（エンター）キーを押す。

変換が確定します。



間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

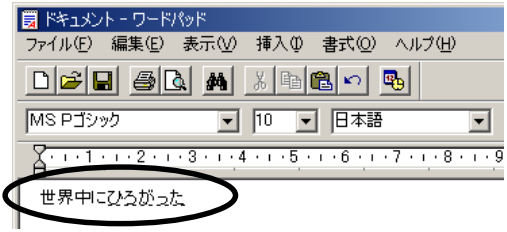
Backspace**（バックスペース）キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete**（デリート）キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc**（エスケープ）キー**：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

ちょっと一言

小さい「っ」を入力するときは、「かった」のように次の文字が「た」であればTキーを2回押します。

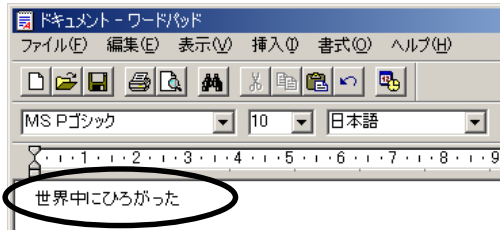
かな入力の場合

ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shift（シフト）キーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

2 **(エンター) キーを押す。**



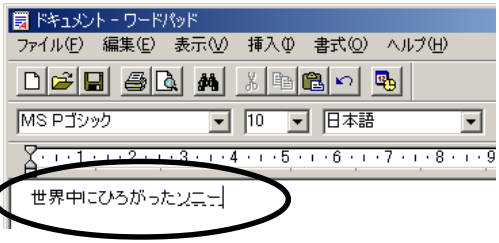
変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

3 カタカナを入力する

1 **MS-IMEのツールバーの［あ］をクリックして、［全角カタカナ］をクリックする。**

ツールバーの表示が[カ]になり、カタカナが入力できる状態になります。

2 **「ソニー」の読みを入力する。**



ローマ字入力の場合

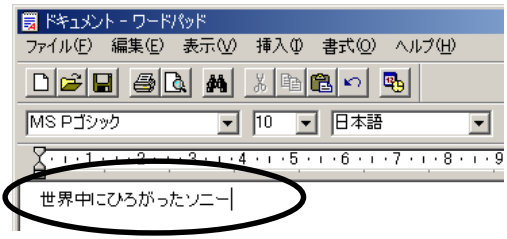
S、O、N、I、−（ハイフン）の順にキーを押します。

かな入力の場合

そ、に、ー の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 **(エンター) キーを押す。**



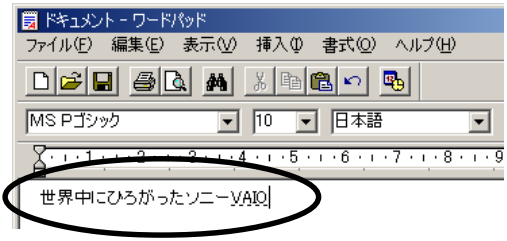
変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

4 英字を入力する

1 **MS-IMEのツールバーの［カ］をクリックして、［半角英数］をクリックする。**

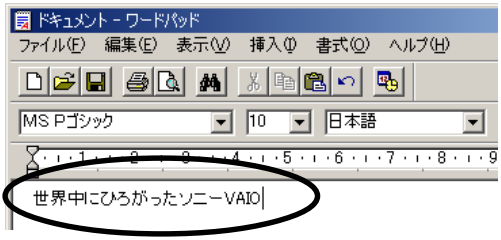
ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 **(シフト) キーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。**



次のページにつづく

3 (エンター) キーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

ちょっと一言

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shift (シフト) キーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったソニーVAIO」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、MS-IMEのヘルプをご覧ください。

「～」や「~」を入力するには

- 全角の「～」を入力するには、MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで (53ページ)、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまでスペースキーを押すか、Shift (シフト) キーを押しながら ^ ~ キーを押します。
- インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」(チルダ) を入力するには、MS-IMEツールバーで「直接入力」を選び ^ ~ キーを押すか、MS-IMEツールバーで「半角英数」(55ページ) を選び、Shift (シフト) キーを押しながら ^ ~ キーを押します。

CD-ROMを使う

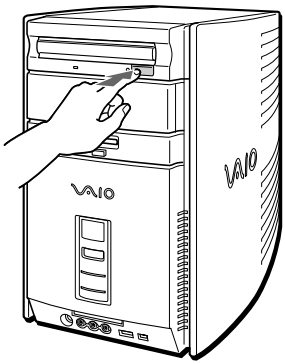
CD-ROMは、コンピュータで扱うソフトウェアやデジタルデータが記録された、読み取り専用のコンパクトディスクです。大容量のデータを記録することができますが、読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを記録することはできません。
ここでは、CD-ROMの使いかたについて説明します。

ディスクを入れる

ここではCD-ROMをCD-RWドライブに入れる方法を説明します。
CD-RWやCD-RなどもCD-ROMと同じ方法で入れます。

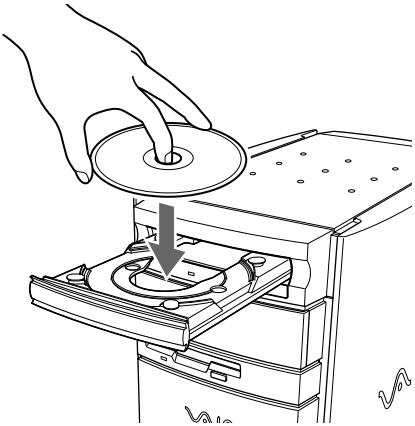
1 **本機の電源を入れる（30ページ）。**

2 CD-RW**イジェクトボタンを押す。**
ディスクトレイが自動的に引き出されます。



次のページにつづく

3 レーベル面（文字が書いてある面）を上にしてディスクをトレイの中央に置く。

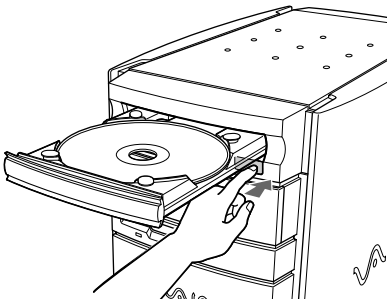


ご注意

CD-ROMディスクの記録面（文字が印刷されていない面）には絶対に触れないようにご注意ください。

4 CD-RWイジェクトボタンを押す。

ディスクトレイが自動的に引き込まれます。



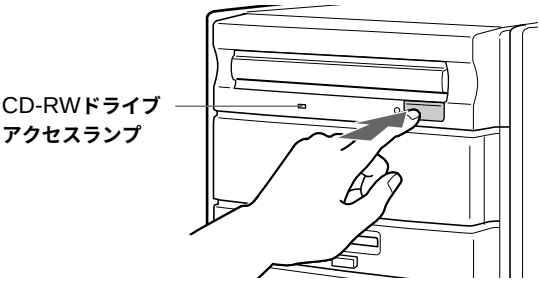
CD-ROMまたは、すでに書き込まれたCD-RW／CD-Rを入れたときは、データの内容が読み込まれます。データを読み始めると、CD-RWドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯します。

ちょっと一言

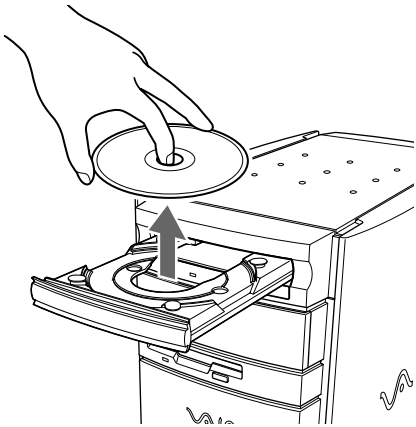
上記の「ディスクを入れる」の手順4を行うと自動的に実行するディスクもあります。

ディスクを取り出すには

1 CD-RW**ドライブアクセスランプがオレンジ色に点灯していないことを確認してから、**CD-RW**イジェクトボタンを押す。**
ディスクトレイが自動的に引き出されます。



2 **ディスクを取り出す。**



ご注意

- CD-RWイジェクトボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。
- CD-RW／CD-RはCD-RWイジェクトボタンを押してもディスクがロックされている場合など、状態によってはトレイが引き出されないことがあります。詳しくは、「DirectCD」や「Easy CD Creator」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

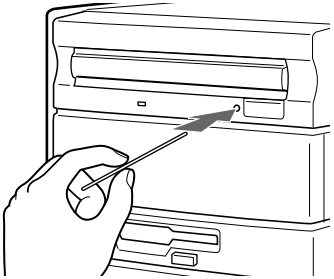
次のページにつづく

ディスクが取り出せないときは

「ディスクを取り出すには」（59ページ）の操作を行ってもディスクが取り出せないときは、次の手順にしたがってください。

1 本機の電源を切る。

2 太い針金のようなもの（伸ばしたクリップでも代用可能）を、マニュアルイジェクト穴にまっすぐ押し込む。



ご注意

針金などを使ってディスクを取り出すときは、手や指にけがをしないように充分注意してください。

データを使う

ここではディスクから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

ちょっと一言

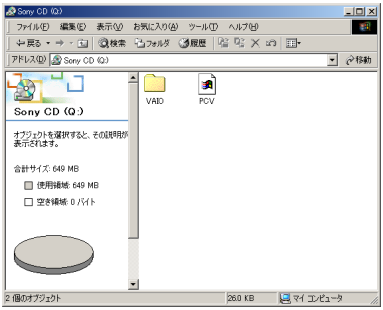
ディスクをCD-RWドライブに入れると、自動的に再生が始まるディスクもあります。このようなディスクの場合は、エクスプローラを使って内容を表示させてください。エクスプローラを起動するには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし［プログラム］にポインタを合わせ、［エクスプローラ］をクリックします。

1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

2 (Q:) をダブルクリックする。

「ディスクを入れる」（57ページ）の手順4で読み込まれたディスクの内容が表示されます。



3 目的に応じて操作する。

ディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。

詳しくは、Windows 2000のヘルプをご覧ください。

Windows 2000のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

使いかたについて詳しくは、「Windows 2000のヘルプの使いかた」（17ページ）をご覧ください。

ハードディスクドライブとは

コンピュータの記憶装置のことで、データの書き込み／読み出しを高速で行います。

使用できるディスク

本機のCD-RWドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク
CD-ROM	
音楽CD	
CD Extra	
CD-RW*	
CD-R*	
CD TEXT	

* CD-RW／CD-Rはソニー製のディスクをお使いになることをおすすめします。

ご注意

- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。
- 破損したディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。
- CD-Rを使用して作成した音楽CDは、ご使用のCDプレーヤーによっては再生できない場合があります。
  CD-RWを使用して作成した音楽CDは、CDプレーヤーでは再生できません。
  CD-RWに対応しているドライブで再生してください。

CD-RW／CD-Rにデータを記録する

CD-RW（CD-Rewritable）は、CD-ROMと外見は似ていますが、コンピュータで扱うプログラムやデータを何度も書き込んだり消去したりすることができるコンパクトディスクです。
CD-R（CD-Recordable）は、コンピュータで扱うプログラムやデータを一度だけ書き込むことができるコンパクトディスクです。
CD-RW／CD-Rには、フロッピーに入りきらない大容量のデータを保存することができます。
本機では付属の「DirectCD」や「Easy CD Creator」ソフトウェアを使ってCD-RW／CD-Rにデータを記録できます。
ここでは、CD-RW／CD-Rの使いかたについて説明します。

ご注意

- 「DirectCD」ソフトウェアでデータを書き込んだCD-Rを他のCD-ROMドライブで再生するには、CD-Rを取り出す際に、CD-ROMドライブでも再生できるように設定する必要があります。CD-Rを取り出す際に表示される画面の指示に従って操作してください。
- 「DirectCD」ソフトウェアで音楽CDを作成したり、音楽CDや市販のCD-ROMなどをコピーすることはできません。

CD-RW／CD-Rにデータを記録する前に

CD-RW／CD-Rへのデータの記録を確実に行うため、以下の点にご注意ください。以下の点を守らない場合、データの書き損じや破損が起こったり、本機が正しく動作しないことがあります。

- データを書き込む前に、「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェア以外のソフトウェアはすべて終了してください。
- スクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピュータを長時間使わないときに、画面の焼き付きを防ぐために表示される画像）を設定している場合は、設定を解除してください。スクリーンセーバーを解除するには、「コントロールパネル」の （画面）をクリックして表示される「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで、リストから「（なし）」を選びます。詳しくは「ディスプレイの設定を変更する」（139ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

- 付属の「VirusScan」（コンピュータウイルスを除去するソフトウェア）を常駐させる設定にした場合や、常駐してディスクのアクセスを高速化するソフトウェアは終了してください。「VirusScan」ソフトウェアを終了するには、デスクトップ画面右下の を右クリックして、表示されるメニューから［終了］をクリックします。

コンピュータウイルスとは

コンピュータウイルスは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。コンピュータウイルスに侵入されると、意味不明なメッセージがデスクトップ画面上に表示されたり、ファイルが勝手に消去されたりしてしまいます。

- データを書き込む前に、電源の管理の設定を以下の手順に従って変更してください。

1 デスクトップ画面左下の をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （電源オプション）をクリックする。

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［電源設定］タブをクリックする。

「電源設定」画面が表示されます。

4 「ハードディスクの電源を切る」の をクリックして「なし」に設定する。

5 OK をクリックする。

ご注意

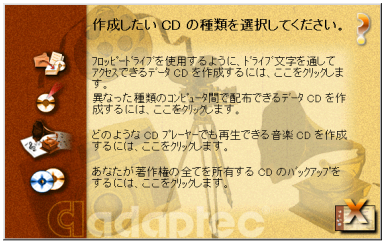
- データの書き込み中は、本機に衝撃や振動を与えないでください。
- データの書き込み中は、本機につないだ i.LINK ケーブルおよび他の i.LINK 対応機器につないだ i.LINK ケーブルを抜き差ししたり、本機や i.LINK 対応機器の電源を入／切しないでください。
- データの書き込み中は、本機をスタンバイモードにしないでください。
- いかなる原因であっても、書き損じたCD-RW／CD-Rは一切補償致しません。あらかじめご了承ください。
- 「Easy CD Creator」ソフトウェアでCD-RW／CD-Rにデータを実際に書き込む前には、テスト書き込みを行うことをおすすめします。
- 付属の「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェア以外をご使用になる場合は、各ソフトウェアの製造・販売者による動作保証ならびにサポートとなりますので、あらかじめご了承ください。
- ご使用のシステムの利用状況によっては、書き込みが不安定になる可能性があります。この場合は書き込み速度を遅くしてください。

データを記録する

1 **CD-RW／CD-Rディスクを入れる。**

ディスクの入れかたについては、57ページをご覧ください。

「作成したいCDの種類を選択してください」画面が表示されます。



ご注意

- CD-RW／CD-Rディスクを入れるときは、記録面には絶対に触れないようにしてください。記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。
- CD-RWは4倍速以上に対応しているものをお使いください。お買い求めの際、 パッケージをご覧になり、4倍速以上に対応しているかご確認ください。CD-Rは8倍速以上に対応しているものをお使いください。お買い求めの際、パッケージをご覧になり、8倍速以上に対応しているかご確認ください。
- 4倍速以上に対応していないCD-RW、8倍速以上に対応していないCD-Rをお使いの場合は、書き込みの速度が遅くなります。これはCD-RWドライブやディスクの不良ではありません。

2 **作成したいCDに応じて左のアイコンをクリックする。**

クリックしたアイコンに応じて「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェアが起動し、操作画面が表示されます。

3 **「DirectCD」ソフトウェアを使うとき（手順2で一番上のアイコンをクリックしたとき）は、CD-RWまたはCD-Rをフォーマットする。**

未使用のCD-RW／CD-Rを「DirectCD」ソフトウェアで使うには、あらかじめ「フォーマット」という作業が必要です。操作について詳しくは、「DirectCD」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。「Easy CD Creator」ソフトウェアをお使いの場合は、フォーマットは必要ありません。

次のページにつづく

フォーマットとは

「フォーマット」とは、お使いのコンピュータでCD-RW／CD-Rにデータを読み書きできるようにCD-RW／CD-Rの記録方式を決めることです。

ご注意

- 「DirectCD」ソフトウェアを使うときには、未使用のCD-RW／CD-Rは、必ずフォーマットを行ってください。フォーマットを行わないと本機はそのCD-RW／CD-Rを認識することができないため、CD-RW／CD-Rを使うことができません。
- 付属の「DVDit!」ソフトウェアを使ってCD-RW／CD-Rにデータを記録するときは、「DVDit!」ソフトウェアの「お使いになる前に」をご覧ください。
- 「DirectCD」ソフトウェアを使ってフォーマットしたCD-RW／CD-Rは、「Easy CD Creator」ソフトウェアで追加書き込みはできません。
- CD-Rを使用して作成した音楽CDは、ご使用のCDプレーヤーによっては再生できない場合があります。CD-RWを使用して作成した音楽CDは、CDプレーヤーでは再生できません。CD-RWに対応しているドライブで再生してください。

「DirectCD」ソフトウェアでフォーマットするのにかかる時間およびフォーマット後の使用可能容量は、以下の通りです。（74分のCD-RW／CD-Rを使用時）

	フォーマットにかかる時間	**フォーマット後の使用可能容量**
CD-RW	約30分	約530Mバイト
CD-R	約20秒	約620Mバイト

4 CD-RWまたはCD-Rディスクにデータを記録する。

操作について詳しくは、「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

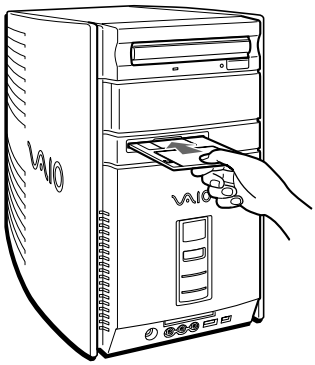
- 「DirectCD」ソフトウェアを使ってフォーマットしたCD-RW／CD-Rは、「Easy CD Creator」ソフトウェアで追加書き込みはできません。
- 「Easy CD Creator」ソフトウェアを使って書き込みしたCD-RW／CD-Rは「DirectCD」ソフトウェアを使って書き込みしたり、ファイルを削除したりできません。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書ファイルなどのデータを保存することができます。
ここでは、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



フロッピーディスクの上下を確認し、フロッピーディスクが完全にセットされるまで静かに押し込む。

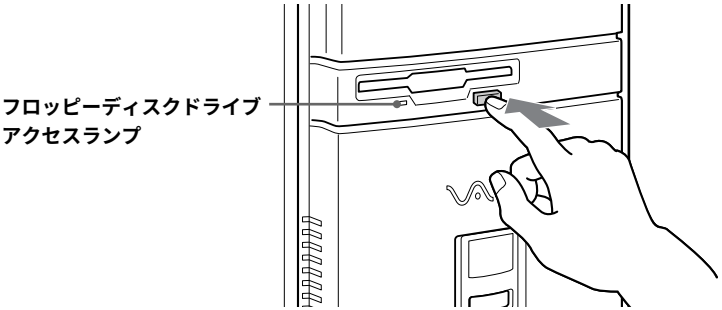
本機では、市販されている「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」（73ページ）をご覧ください。「DOS／V 1.44MBフォーマット済み」などと記載されたフロッピーディスクをご購入いただくと、初期化する手間が省けます。
初期化とは何かについては、「フロッピーディスクを初期化する」（71ページ）をご覧ください。。

フロッピーディスクを取り出すには

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクおよびデータの破損の原因となります。

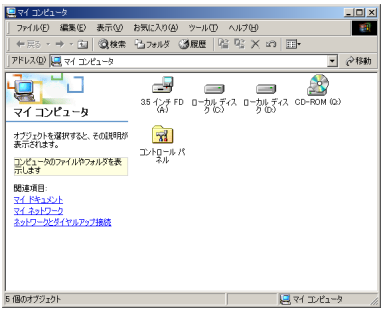


フロッピーディスクのデータを使う

ここではフロッピーディスクから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

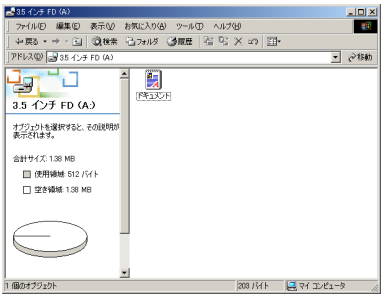
1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。



2 **(3.5インチFD (A:)) をダブルクリックする。**

フロッピーディスクの内容が表示されます。



3 **目的に応じて操作する。**

フロッピーディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。

詳しくは、Windows 2000のヘルプをご覧ください。

Windows 2000のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

詳しくは「Windows 2000のヘルプの使いかた」(17ページ) をご覧ください。

フロッピーディスクにデータをコピーする

作成した文書などのデータをフロッピーディスクにコピーするには、以下の手順に従ってください。

1 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。

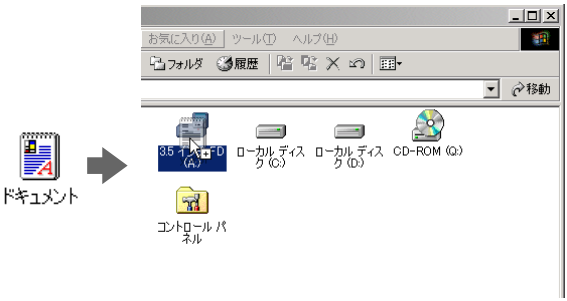
入れかたについては67ページをご覧ください。

2 デスクトップ画面上の（マイ コンピュータ）をダブルクリックする。

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。

3 コピーするデータのアイコンをクリックし、（3.5インチFD（A:））に重なるようにドラッグする。

（3.5インチFD（A:））が反転表示されます。



4 マウスのボタンを離す。

データがフロッピーディスクにコピーされます。

フロッピーディスクを初期化する

「DOS／V 1.44MBフォーマット済み」などと記載されたフロッピーディスクは、そのまま本機のフロッピーディスクに入れてすぐにお使いになれますが、以下の場合は「初期化」（または「フォーマット」ともいう）という作業が必要です。

- 「DOS／V 1.44MBフォーマット済み」などと記載されていないフロッピーディスクを初めて使うとき
- フロッピーディスクの中のデータがいっぱいになり、そのデータを一度に消して初期状態に戻したいとき

「初期化」とは、お使いのコンピュータでフロッピーディスクにデータを読み書きできるようにフロッピーディスクの記録方式を決めることです。
初期化するとフロッピーディスクは、区画に分けられ番地が付けられ、どの区画にどんな情報が書き込まれているかを記録し、管理する部分が作られます。
本機でフロッピーディスクを初期化するには、以下の手順に従ってください。

ご注意

すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクを初期化すると、そのデータは消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

1 初期化したいフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。

入れかたについては67ページをご覧ください。

2 デスクトップ画面左上の （マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

3 （3.5インチFD（A:））を右クリックし、表示されるメニューから［フォーマット］をクリックする。

フォーマットの画面が表示されます。

4 をクリックする。

フロッピーディスクが初期化されます。

5 をクリックする。

フォーマットの画面が閉じます。

「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと書かれた、すでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

❑ 書き込み可能

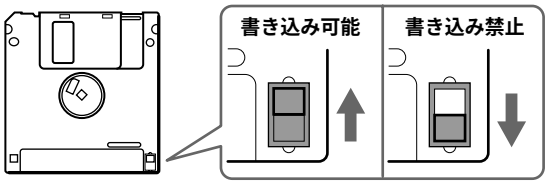
データの書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないときは、書き込み禁止にしておきます。

フロッピーディスク裏面



使用できるフロッピーディスク

本機では、パッケージに「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。また、3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイトの2種類に分けることができます。本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のコンピュータとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいコンピュータのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイト
1.2Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2DD 720Kバイト

テレビ番組やビデオを録画／再生する

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組やビデオを録画したり、再生できます。

テレビ番組やビデオカメラレコーダー、ビデオデッキからの動画を録画するとき

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組、ビデオカメラレコーダー、ビデオデッキからの動画を録画できます。録画しながら過去にさかのぼって再生したり、別の録画済みの動画を再生できます。
i.LINK対応機器からの動画を録画することもできます。
以下の流れに沿って録画します。

アンテナやビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーを本機に接続する

アンテナの接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。
ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの接続について詳しくは、「ビデオ機器をつなぐ」（100ページ）をご覧ください。

「Giga Pocket」ソフトウェアを起動する

起動後は、「Giga Pocket」を使って録画します。
「Giga Pocket」の使いかたについて詳しくは、「Giga Pocket」の取扱説明書をご覧ください。

録画した動画を再生するとき

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、録画した動画を最初から再生したり、指定した区間を連続して再生することができます。再生のしかたについて詳しくは、「Giga Pocket」の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機は、マクロビジョン社やその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョン社の許諾が必要であり、マクロビジョン社が特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。
- 「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってインターネットから取り込んだ予約データの間違いなどにより損害が生じた場合には、当社の保証対象外となりますのでご注意ください。
- 本機のアンテナ入力またはアナログ入力コネクタから動画を取り込むとき、以下のような同期信号が乱れた動画を入力した場合に、動画にノイズが出たり、一時途切れたり、取り込みに失敗することがあります。
  ー取り込む動画が乱れたとき、または本機に何も入力されていないとき
  ー本機後面のVIDEO 1 INPUTコネクタまたは、本機前面のVIDEO 2 INPUTコネクタにつないだケーブルをつなぎかえたとき
  ーテレビ番組を入力中にテレビ局の放送信号が何らかの原因で乱れたとき
  ー入力中のテレビ番組の電波が弱いとき、ノイズが入ったとき、または放送が行われてないとき
  ービデオデッキから映像入力中に、ビデオデッキのチャンネルや入力を切り換えたとき
  ービデオデッキや、ビデオカメラレコーダーから映像入力中に、ビデオテープのつなぎ撮りをした部分を再生したとき
  ービデオカメラレコーダーで録画中に振動やゆれを加えて撮ったテープを再生したとき
  ー本機へ映像入力中に再生側のビデオデッキやビデオカメラレコーダーに振動やゆれが加わったとき

リモコンを使って「Giga Pocket」ソフトウェアを操作するには

付属のリモコンを使って、「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できます。テレビのチャンネルをかえたり、リモコンでビデオカプセルを選択して再生できます。

リモコンを使っての「Giga Pocket」ソフトウェアの操作について詳しくは、「リモコンボタンのモード別機能一覧」（24ページ）および「Giga Pocket」の取扱説明書をご覧ください。

ビデオカプセルとは

「Giga Pocket」ソフトウェアで録画した動画を入れる入れ物のようなものです。動画を記録するためのMPEGファイルと各種の付加情報が結合した、ソニー独自のファイル形式です。

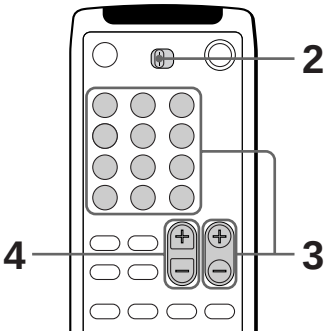
テレビを操作する

付属のリモコンを使って、本機に接続されているソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200やテレビを操作することができます。

ちょっと一言

お買い上げ時の設定では、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200でテレビを見るための操作ができるように設定されています。
リモコンで他社のテレビを操作できるように設定することもできます。詳しくは、「リモコンで各社のテレビを操作するには」（27ページ）をご覧ください。

テレビを見るには



1 テレビの主電源を入れる。

2 リモコンのテレビ／VAIO切り換えスイッチを「テレビ」に切り換える。

3 チャンネル数字ボタンまたはチャンネルボタンを押して、チャンネルを選ぶ。

選んだチャンネルの放送がテレビに映ります。

4 音量ボタンを押して、音量を調節する。

テレビを消すには

リモコンの電源／スタンバイボタンを押します。

音を一時的に消すには

リモコンの消音ボタンを押します。もう1度押すか、音量ボタンを押すと音が出ます。

入力を切り換えるには

リモコンの入力切換ボタンを押します。外部入力された映像に切り換わります。

音声を切り換えるには

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選択することができます。リモコンの音声切換ボタンを押すごとに、音声が以下のように切り換わります。

項目	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
主音声	主音声	主音声
副音声	副音声	副音声
主＋副音声	主音声	副音声

ご注意

テレビによっては一部のボタンが使えないことがあります。

動画で楽しむ

本機にi.LINK対応機器から動画を取り込み、動画を加工／編集したり、電子メールに添付して送ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の動画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から動画を取り込む
- 動画を加工／編集する
- 動画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から動画を取り込む

付属の「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から動画を本機に取り込めます。
以下の流れに沿って動画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（92ページ）をご覧ください。

「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を取り込みます。
各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ちょっと一言

- テレビ番組やアナログのビデオカメラレコーダー、ビデオデッキから動画を取り込むこともできます。接続について詳しくは、「AV機器をつなぐ」（99ページ）をご覧ください。
- 取り込んだ動画は、「DVDit!」ソフトウェアを使ってCD-RW／CD-Rに記録することができます。詳しくは、「DVDit!」ソフトウェアの「お使いになる前に」をご覧ください。

ご注意

- ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む動画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」(139ページ) をご覧ください。
- 「DVgate Motion」ソフトウェアを使って取り込む動画データは容量が大きいので、本機では、ハードディスクがC:ドライブとD:ドライブの2つに分かれており(工場出荷時)、動画を扱うためのデータのスペースとしてD:ドライブが確保されています。お使いになる状況によって、D:ドライブに割り当てられている容量を変えることができます。パーティションサイズを変更するには、「パーティションサイズを変更する」(173ページ) をご覧ください。
- 「アナログDVコンバータ」を使って、本機のアンテナ入力またはアナログ入力コネクタから動画を取り込むとき、以下のような同期信号が乱れた動画を入力した場合に、動画にノイズが出たり、一時途切れたり、取り込みに失敗することがあります。

  ー取り込む動画が乱れたとき、または本機に何も入力されていないとき
  ー本機後面のVIDEO 1 INPUTコネクタまたは、本機前面のVIDEO 2 INPUTコネクタにつないだケーブルをつなぎかえたとき
  ーテレビ番組を入力中にテレビ局の放送信号が何らかの原因で乱れたとき
  ー入力中のテレビ番組の電波が弱いとき、ノイズが入ったとき、または放送が行われていないとき
  ービデオデッキから映像入力中に、ビデオデッキのチャンネルや入力を切り換えたとき
  ービデオデッキや、ビデオカメラレコーダーから映像入力中に、ビデオテープのつなぎ撮りをした部分を再生したとき
  ービデオカメラレコーダーで録画中に振動やゆれを加えて撮ったテープを再生したとき
  ー本機へ映像入力中に再生側のビデオデッキやビデオカメラレコーダーに振動やゆれが加わったとき

リフレッシュレートとは

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートといいます。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

動画を加工／編集する

i.LINK対応機器で録画した動画を本機に取り込んで加工／編集することができます。不要なシーンを切り取ったり、複数の動画をつなげるといった加工をするときは付属の「DVgate Assemble」ソフトウェアを使います。本機には「Adobe Premiere」ソフトウェアが付属しており、動画と動画をつなぐオーバーラップ効果や色の調整、特殊効果、タイトルの挿入などさまざまなビデオ編集ができます。加工／編集した動画はi.LINK対応機器に録画することもできます。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

「DVgate Motion」ソフトウェアを使って、i.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（78ページ）の取扱説明書をご覧ください。

動画の簡単な加工をする

「DVgate Assemble」ソフトウェアを使って動画を加工します。
「DVgate Assemble」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

動画を編集する

「Adobe Premiere」ソフトウェアを使って動画を編集します。
「Adobe Premiere」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Adobe Premiere」のオンラインマニュアルをご覧ください。

ちょっと一言

- 加工／編集した動画は「DVDit!」ソフトウェアを使ってCD-RW／CD-Rに記録することができます。詳しくは「DVDit!」ソフトウェアの「お使いになる前に」をご覧ください。
- 本機には「デジタルビデオ編集読本」が付属しています。「DVgate」や「Adobe Premiere」ソフトウェアのオンラインマニュアルとあわせてご覧ください。

動画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ動画を電子メールに添付して送ることができます。動画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（78ページ）をご覧ください。

動画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

静止画で楽しむ

本機にi.LINK対応機器から静止画を取り込み、静止画を電子メールに添付して送ったり、パノラマ画像や写真入りのラベルを作ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の静止画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から静止画を取り込む
- 静止画を電子メールで送る
- パノラマ画像を作る
- 写真入りのラベルを作る

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

付属の「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で録画した映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込めます。
以下の流れに沿って静止画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（92ページ）をご覧ください。

「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。
各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ちょっと一言

テレビ番組やアナログのビデオカメラレコーダー、ビデオデッキから静止画を取り込むこともできます。接続について詳しくは、「AV機器をつなぐ」（99ページ）をご覧ください。

ご注意

ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、静止画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む静止画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」（139ページ）をご覧ください。

リフレッシュレートとは

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートといいます。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

静止画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ静止画を電子メールに添付して送ることができます。静止画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使って、i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（82ページ）をご覧ください。

静止画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

パノラマ画像を作る

本機に取り込んだ静止画を何枚かつなげて、パノラマ画像を作ることができます。パノラマ画像を作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

パノラマ画像の作成に必要な静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、パノラマ画像作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（82ページ）をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」を使ってパノラマ画像を作ります。
「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

写真入りのラベルを作る

本機に取り込んだ静止画を使ったラベルを作成し、印刷してビデオテープのケースなどに貼ることができます。写真入りのラベルを作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

ラベルに入れる静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、ラベル作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（82ページ）をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」ソフトウェアを使って静止画や文字をレイアウトして、写真入りのラベルを作ります。
「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

他の機器とデータをやりとりする

本機で作成したデータを他の機器に送ったり、他の機器で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

ここでは、データ交換で使われている以下の方法について説明します。

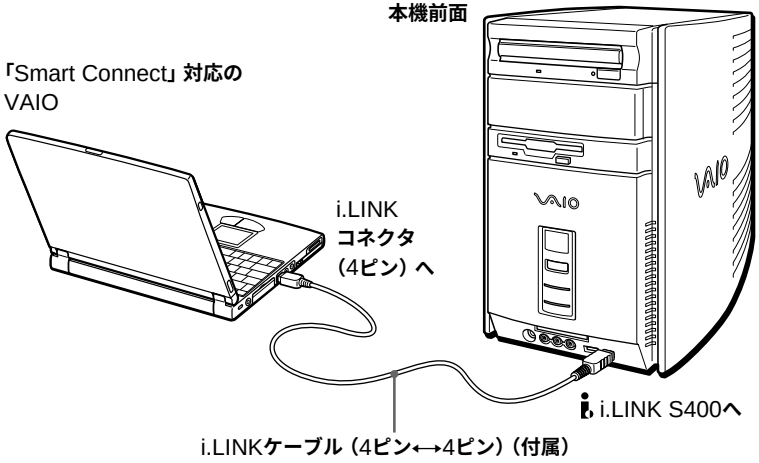
- 「Smart Connect」を使ってやりとりする
- PCカードを使ってやりとりする
- ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする

「Smart Connect」を使ってデータをやりとりする

「Smart Connect」に対応したVAIOと本機を、本機に付属しているi.LINKケーブル（4ピン⟷4ピン）または別売りのi.LINKケーブルで接続し、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。また、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。

詳しくは、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。

i.LINK接続については、「i.LINK対応機器をつなぐ」（92ページ）をご覧ください。



ちょっと一言

「Smart Connect」を使ったデータのやりとりの状態は、「Smart Connectモニタ」で確認できます。デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックして確認します。詳しくは、「Smart Connectモニタ」のヘルプをご覧ください。

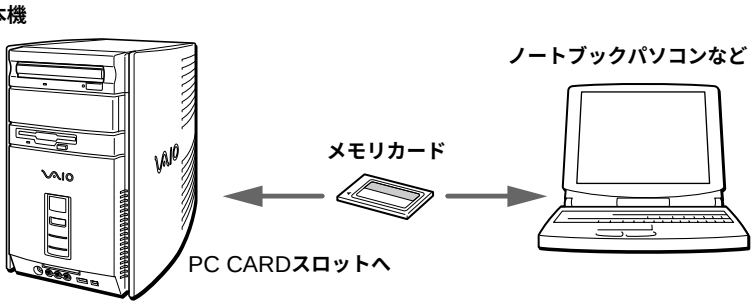
ご注意

- これまでi.LINKケーブルで接続したことのないVAIOとの初回接続時にドライバのインストールが行われます。ドライバのインストール時は管理者権限（Administrators）のユーザーでログインしている必要があります。
- 「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときに、「DVgate」、「Smart Capture」のいずれかのソフトウェアを起動すると、本機が正常に動作しなくなることがあります。「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときは、これらのソフトウェアは起動しないでください。
- 「Smart Connect」をご使用の際は、「アナログDVコンバータ」の入力切り換えは行わないでください。

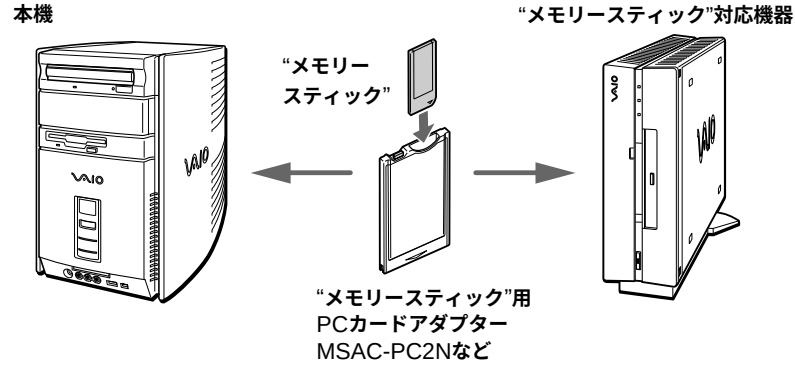
PCカードを使ってデータをやりとりする

本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリカードに保存して、データをやりとりできます。

PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」（116ページ）をご覧ください。

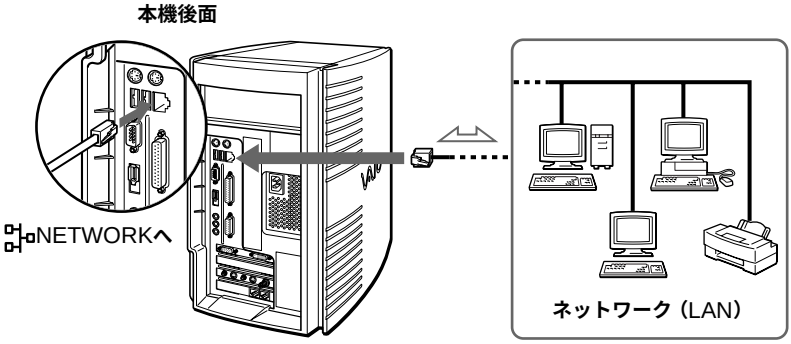


ソニー製“メモリースティック”用PCカードアダプターMSAC-PC2Nなどを本機のPCカードスロットに取り付けると、“メモリースティック”を使って“メモリースティック”対応機器とデータのやりとりができます。



ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする

本機後面のNETWORKコネクタとネットワーク（LAN）を直接接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
10BASE-Tと100BASE-TXタイプのネットワークに接続できます。



ご注意

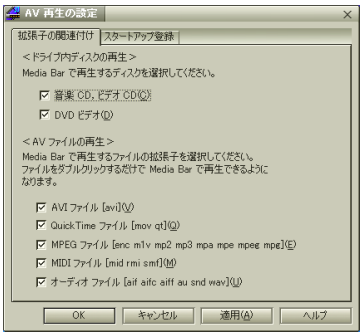
NETWORKコネクタには指定以外のネットワークや電話回線を接続しないでください。

音楽CDを再生する

付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、音楽CDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。（一部ソフトウェアを除きます。）
「Media Bar」ソフトウェアを使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Media Bar」ソフトウェアを使うには以下の流れに沿って行います。

1 初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときはデスクトップ画面上の（AV再生の設定）をクリックする。

「AV再生の設定」画面が表示されます。



2 画面の指示に従って各チェックボックスをクリックしてから、 OK をクリックする。

「Media Bar Launcher」画面が表示されます。

3 再生する。

「Media Bar」ソフトウェアの使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

一度上記の流れに従って「Media Bar」ソフトウェアの再生のための設定を終了すると、（AV再生の設定）は表示されず、2回目以降はすぐに再生を楽しむことができます。再度設定を行いたい場合は、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Media Bar］から［AV再生の設定］をクリックします。

拡張編

周辺機器を接続する 92

本体を拡張する 109

i.LINK対応機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

ご注意

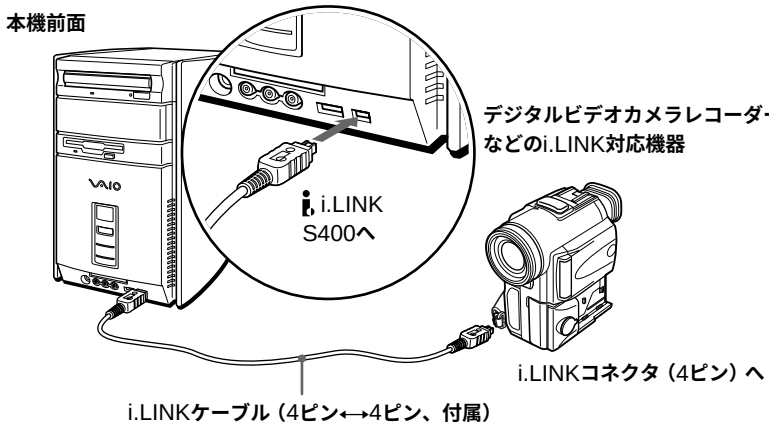
- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」(97ページ) および「本機と操作できるi.LINK対応機器」(98ページ) をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは一度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源は切る必要はありません。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。同時に2台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
  「DVgate」と「Giga Pocket」ソフトウェアの「アナログDVコンバータ」を併用して、アナログのビデオカメラレコーダーやビデオデッキから動画や静止画を取り込むときは、一緒にi.LINK対応機器をつないだままにせず、取りはずしてください。

ちょっと一言

- 本機には、i.LINK機器が2つ内蔵されています。このため、i.LINKの規格上は本機を含め61台までi.LINK対応機器を接続でき、いずれの経路も最大16台の機器を接続できます (最大15ホップ)。
  「ホップ」については95ページをご覧ください。
- i.LINK対応機器をつないだときに自動的にお好みのソフトウェアが起動するように設定することができます。詳しくは「VAIO Action Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

前面パネルのコネクタ（4ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（付属）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。
i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

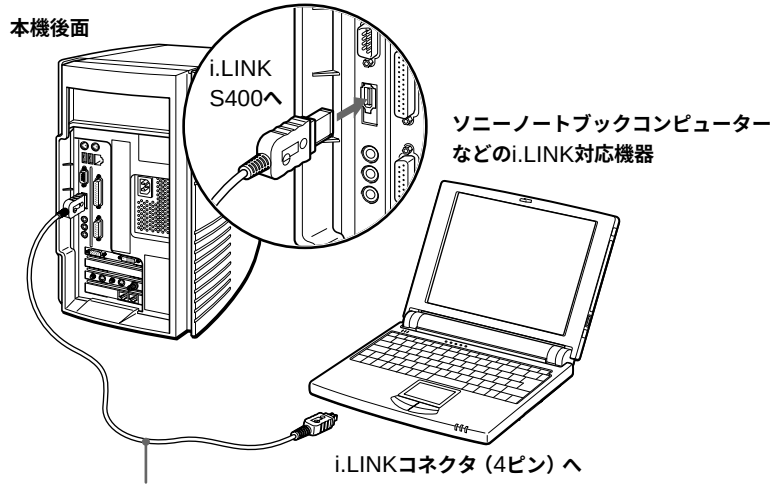


ご注意

接続の際は、付属のi.LINKケーブルをお使いください。

後面パネルのコネクタ（6ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（4ピン↔6ピン、別売り）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。
i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



i.LINKとは？

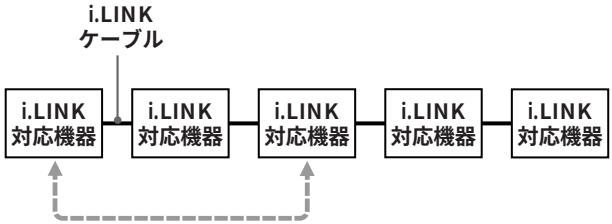
i.LINKは、i.LINKコネクタを持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ちょっと一言

- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
  IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
  この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
  このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
  また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。

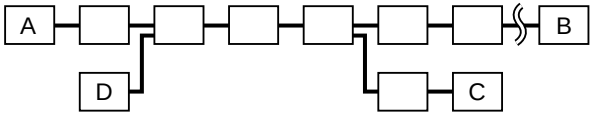


2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

- i.LINKコネクタを3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINKの規格上、i.LINK対応機器は本機を含めて63台*まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台*までです。(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。)

  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。



A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、いずれの経路も最大17台の機器を接続できます(最大16ホップ)。

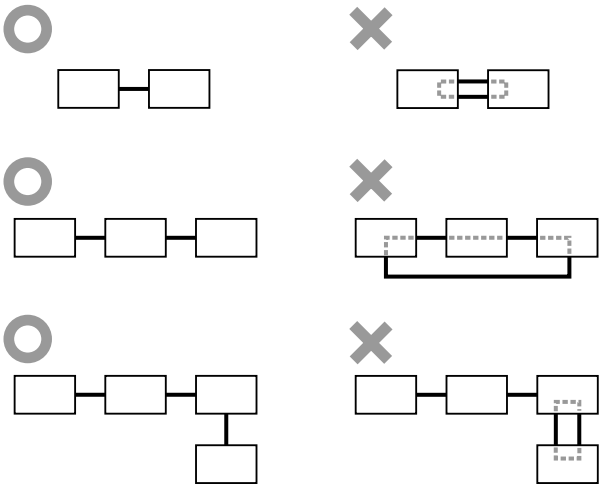
*i.LINK対応機器が2つ内蔵されている場合は、接続できる台数および経路接続台数は1を引いた台数になります。

次のページにつづく

接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

正しい接続例　　**ループの接続例**



接続についてのご注意

- コンピュータなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られていたり、スタンバイモードに入っているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINKコネクタの周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

必要なi.LINKケーブル

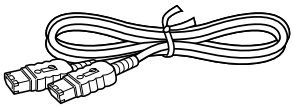
ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機に付属のi.LINKケーブル、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、下記のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

本機には4ピン↔4ピンのi.LINKケーブル（1.5 m）が付属しています。長い4ピン↔4ピンのi.LINKケーブルが必要な場合は、別売りのVMC-IL4435A（3.5 m）をお使いください。

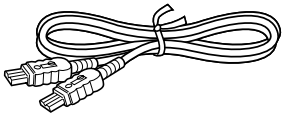
6ピン↔6ピン

- VMC-IL6615A（1.5 m）
- VMC-IL6635A（3.5 m）



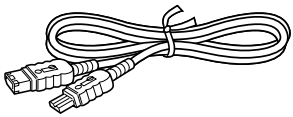
4ピン↔4ピン

- VMC-IL4408（80 cm）
- VMC-IL4415A（1.5 m）
- VMC-IL4435A（3.5 m）



4ピン↔6ピン

- VMC-IL4615A（1.5 m）
- VMC-IL4635A（3.5 m）



ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機と操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。
（2000年5月10日現在）

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

  * 別売りのパワーアップステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。
  取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

- ソニーi.LINK CD-RWドライブ PCVA-CRW1
- ソニーが2000年4月末日までに日本国内で発売した、DV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバーターおよびDigital 8デジタルビデオカメラレコーダーを含む、ツーリストモデルは除く）

ご注意

本機はDTLAコピー・プロテクション技術（94ページ）に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピープロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することはできません。

AV機器をつなぐ

本機にはいろいろなAV機器をつなぐことができます。ここでは用途別に接続例を紹介します。

こんなことがしたい	このようにつないでください
• ビデオデッキの動画を本機につないだディスプレイで見たい • ビデオデッキの動画を本機のハードディスクに録画したい	本機とビデオデッキをつなぎます。 接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ」（100ページ）をご覧ください。
• ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機につないだディスプレイで見たい • ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機のハードディスクに録画したい	本機とビデオカメラレコーダーをつなぎます。 接続のしかたについては「ビデオ機器をつなぐ」（100ページ）をご覧ください。
ディスプレイで見ている動画をテレビでも見たい	本機とテレビをつなぎます。 接続のしかたについては「テレビにつなぐ」（104ページ）をご覧ください。

ビデオ機器をつなぐ

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーを本機につないで、ディスプレイでビデオデッキの動画を見たり、録画することができます。また、再生した動画をビデオデッキで録画することもできます。

Sビデオ接続ケーブル（別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーをつなぎます。本機には前面および後面パネルにそれぞれ映像／音声入力コネクタとS映像入力コネクタがあり、どちらの入力コネクタを使うこともできます。

ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 前面パネルの音声入力コネクタを使うときは、別売りのオーディオ接続ケーブルが必要です。

すでに壁のアンテナコネクタにビデオデッキやテレビがつながっているときは

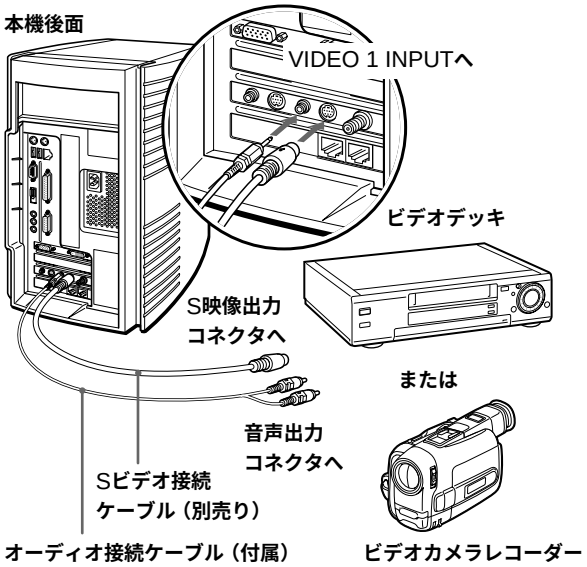
本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使う場合は、アンテナブースターを使って分配する必要があります。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

ビデオデッキの映像を見たり録画するには

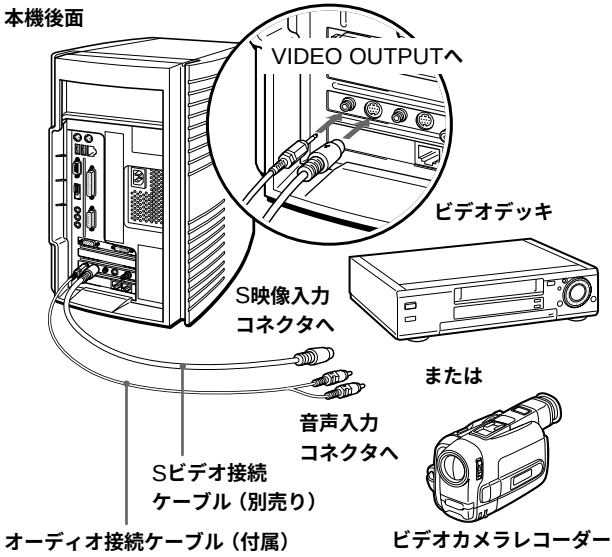
付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使います。ビデオデッキの映像を「Giga Pocket」ソフトウェアで扱う方法については、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

後面パネルのコネクタを使うとき

- **ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの動画を見たり取り込むとき**



- **本機で録画した動画をビデオデッキやビデオカメラレコーダーに録画するとき**



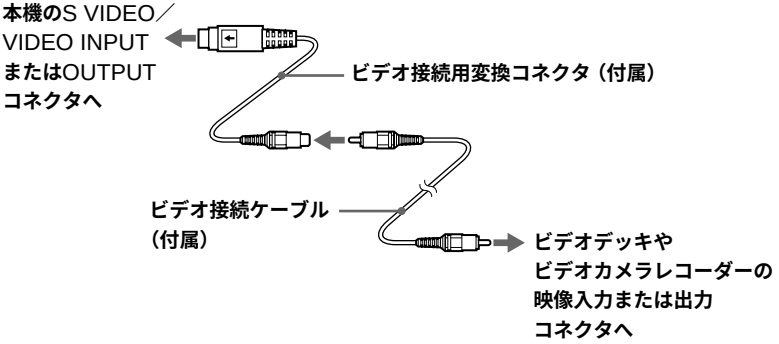
次のページにつづく

ご注意

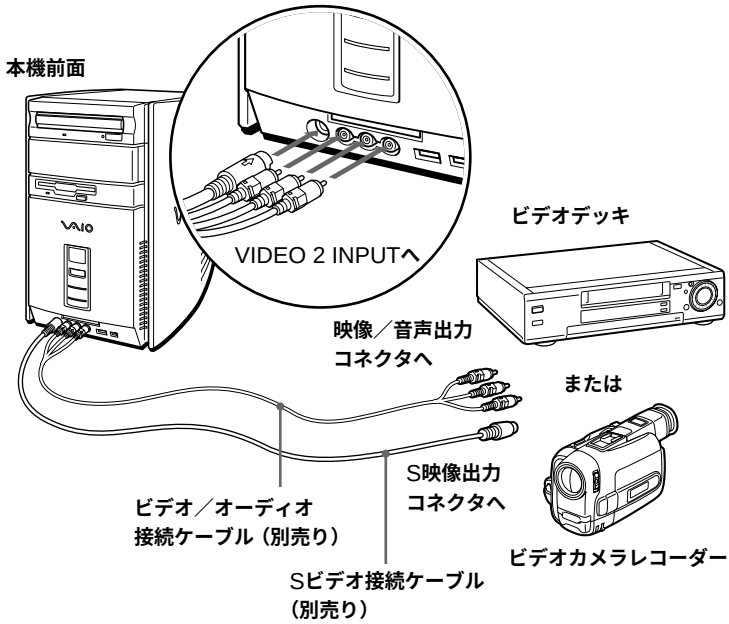
本機のVIDEO 1 INPUTコネクタとVIDEO OUTPUTコネクタに同時にビデオデッキやビデオカメラレコーダーを接続して使用すると、雑音が出たり、映像が乱れることがあります。

S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキやビデオカメラレコーダーをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



前面パネルのコネクタを使うとき



ご注意

本機のS映像入力コネクタを使うときは、映像入力コネクタに接続ケーブルをつなぐ必要はありません。S映像入力コネクタに接続ケーブルをつなぐと、S映像入力が優先されます。

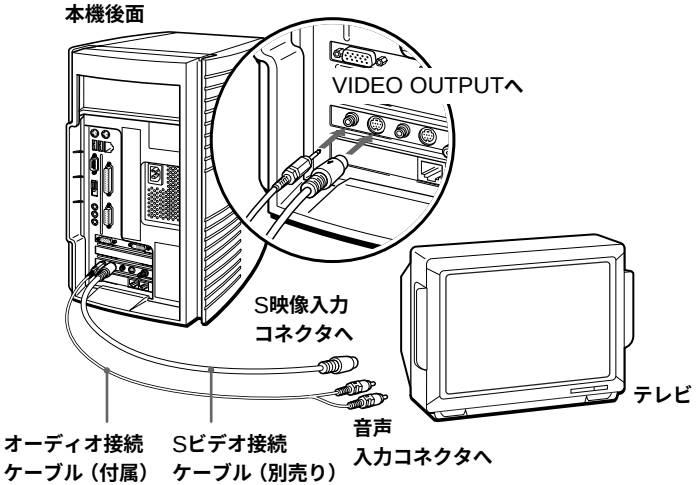
テレビにつなぐ

「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像をテレビでも見ることができます。

Sビデオ接続ケーブル（別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。



ビデオデッキをつなぐときは

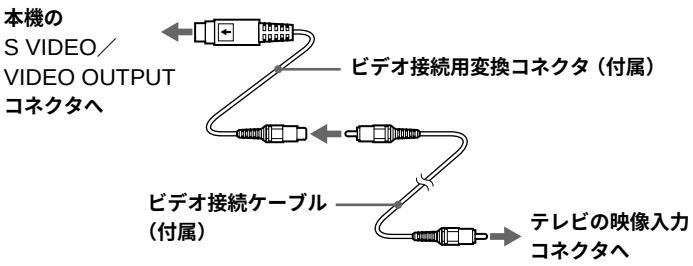
本機のVIDEO OUTPUTコネクタとビデオデッキの映像／音声入力コネクタをつなぎ、ビデオデッキの映像／音声出力コネクタとテレビの映像／音声入力コネクタをつなぎます。

すでに壁のアンテナコネクタにビデオデッキやテレビがつながっているときは

本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使う場合は、アンテナブースターを使って分配する必要があります。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

S映像入力コネクタのないテレビをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。

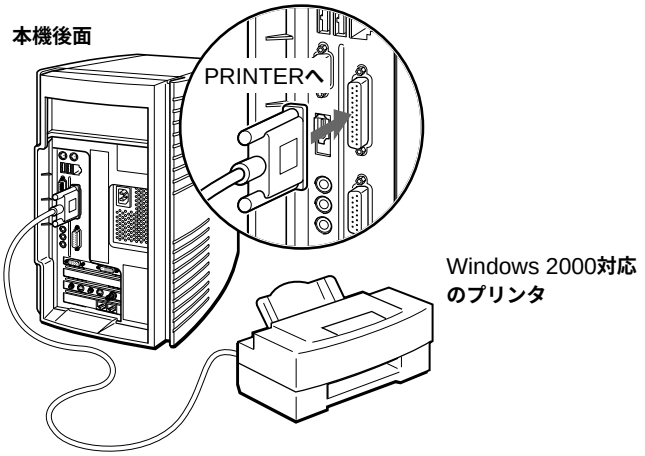


プリンタをつなぐ

Windows 2000に対応しているプリンタを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
プリンタに付属または別売りのプリンタケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 2000に対応していないプリンタを本機につないでも、正常に動作しません。



プリンタを使用するには

プリンタを使用するには、プリンタに付属のドライバを本機にインストールする必要があります。
詳しくはプリンタおよびWindows 2000のヘルプをご覧ください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

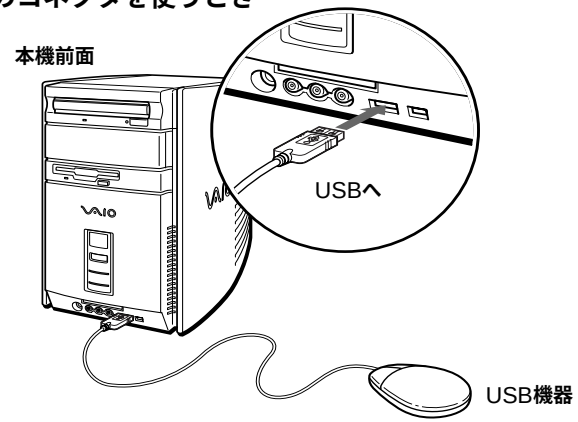
ご注意

本機をスタンバイモードから通常の動作モードに戻したあとで、本機につないだプリンタが使えなくなる場合があります。この場合は、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［プリンタイネーブラ］をクリックして表示される画面で OK をクリックしてください。プリンタが使えるようになります。なお、プリンタが正常に使える場合には、「プリンタイネーブラ」は実行しないでください。

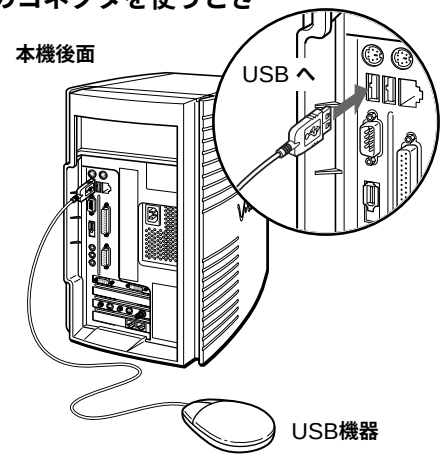
USB機器をつなぐ

本機の前面と後面にあるUSBコネクタを使って、USB機器をつなぐことができます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

前面パネルのコネクタを使うとき



後面パネルのコネクタを使うとき



ジョイスティック／MIDI機器をつなぐ

ジョイスティックをつないでゲームをよりリアルに楽しんだり、MIDI（Musical Instrument Digital Interface）に対応した電子楽器をつないで音楽を楽しめます。

ご注意

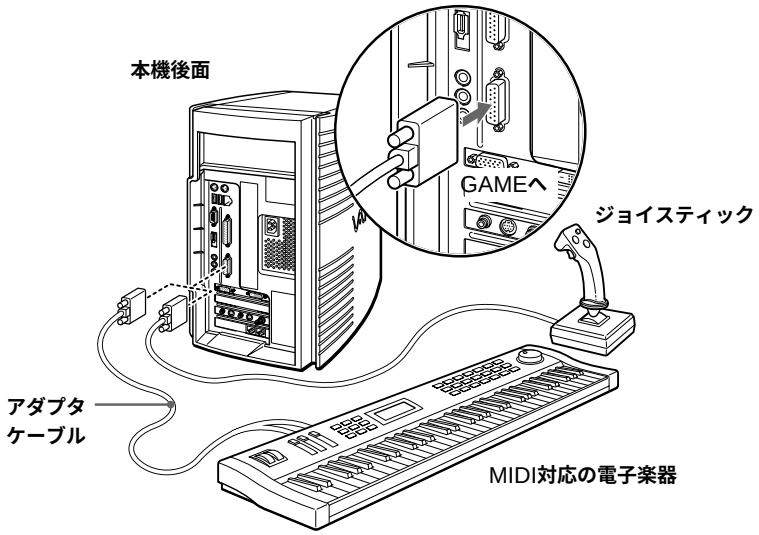
- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

ジョイスティックとは

ゲームなどでよく使われる操作用の機器です。方向をコントロールする柄の部分と、操作をコントロールするボタンから成っています。ジョイスティックを使うと、ゲームをよりリアルに楽しむことができます。ジョイスティックをつなぐときは、ジョイスティックの取扱説明書もあわせてご覧ください。

MIDI機器とは

MIDIとは、電子楽器間で情報をやりとりするために決められた通信規格のことです。MIDIに対応した電子機器をつなぐことで、本機からMIDI機器をコントロールして、自動演奏を楽しむことができます。MIDI機器をつなぐときは、電子楽器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



ご注意

MIDIに対応していない電子楽器はつなげません。

拡張ボードを増設する

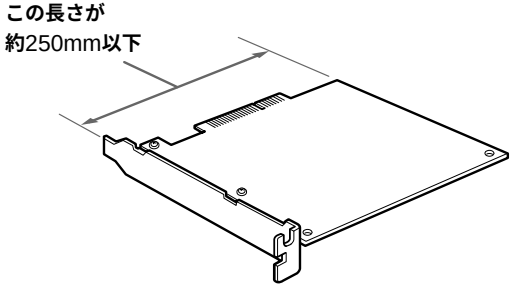
本機では拡張ボードと呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCI」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 2000とPCI規格に対応していることをご確認ください。
本機では空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が1か所あり、PCI拡張ボードを1枚取り付けることができます。

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの長さは、約250mmまでです。



増設できる拡張ボードについて

VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。
VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードは、ボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリ、I／Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。
PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。

IRQとは

「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じた割り込み処理を行います。

メモリとは

コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

I/Oポートとは

「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブや、ハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

リソースとは

もともとは、「資源」という意味です。コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼働するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。

リソースを確認するには

「システムのプロパティ」画面で現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）を右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

2 ［プロパティ］をクリックする。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［ハードウェア］タブをクリックする。

「ハードウェア」画面が表示されます。

4 デバイス マネージャ(D)... をクリックする。

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

5 画面左上の［表示］をクリックして、表示されるメニューから［リソース（種類別）］または［リソース（接続部）］をクリックする。

現在使用中のリソースが種類別または接続別に表示されます。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

電源の切りかたについて詳しくは「電源を切る」（31ページ）をご覧ください。

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」（112ページ）をご覧ください。

電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」（30ページ）をご覧ください。

ドライバの設定、インストールを行う

拡張ボードが本機に認識されると、メッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバのインストールが必要となる場合があります。

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときのご注意

拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が壊れることがあります。

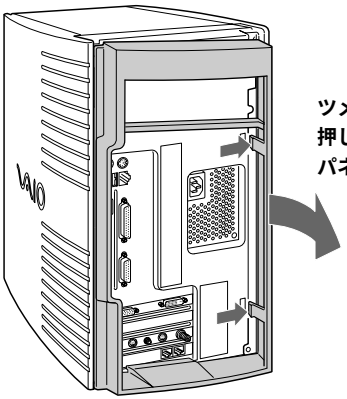
- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。
- 拡張ボード増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーと後面パネルを取り付けてから電源を入れてください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

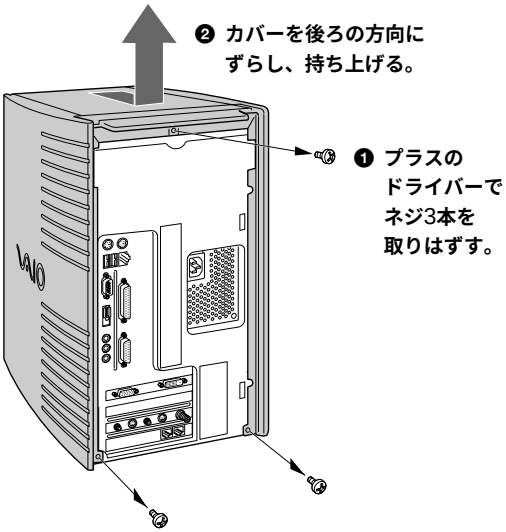
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 後面のパネルを取りはずす。



ツメを矢印の方向に押しながら、後面のパネルを手前に引く。

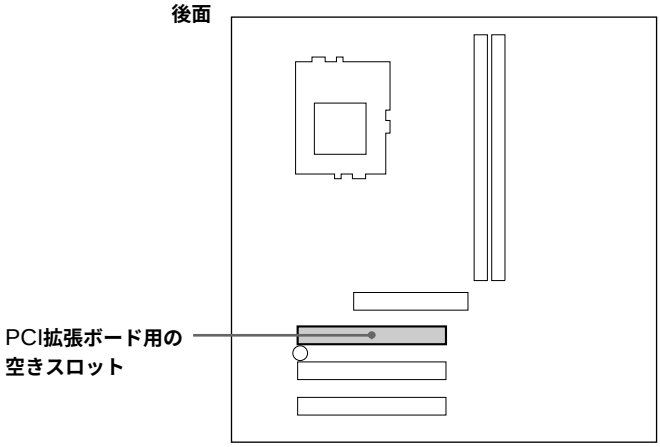
3 本機後面のネジをはずし、カバーを取りはずす。



ご注意

取りはずした3本のネジはカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

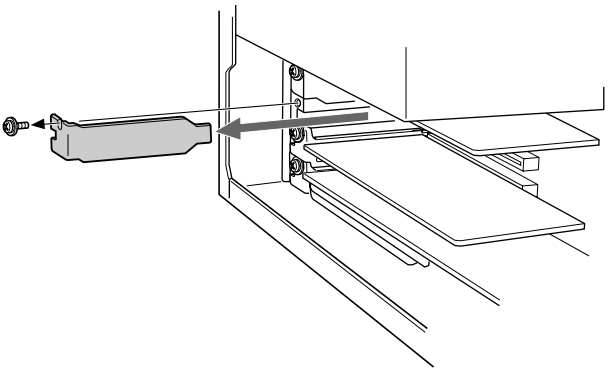
本機の内部基板は下の図のようになっています。



次のページにつづく

4 **拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。**

スロットのカバーを取り付けているネジをはずし、本体の内部からカバーを取りはずします。

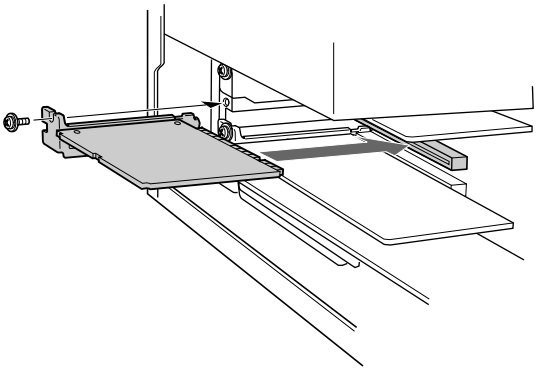


ご注意

内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。

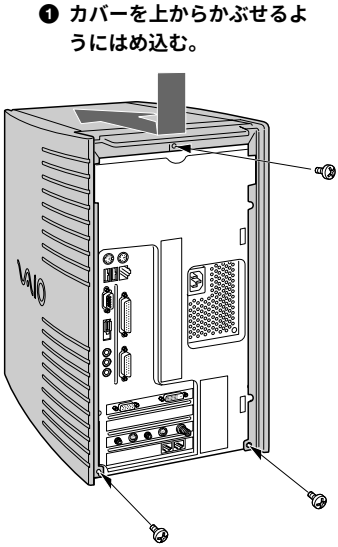
5 **拡張ボードを取り付ける。**

拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。
詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。



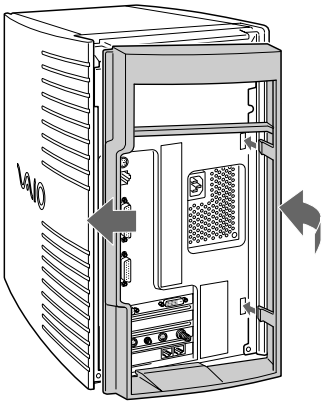
6 カバーを取り付ける。

カバーを上からかぶせるようにはめ込み、ネジをしめます。



7 後面のパネルを取り付ける。

先に左側面のツメを差し込み、パネルを取り付けます。



次のページにつづく

8 **手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。**
Windows 2000が起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

PCカードを使う

本機にPCカードを装着すると、他のコンピュータとデータをやりとりしたり、さまざまな機能を拡張したりできます。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
PCカードには以下のような種類があります。

メモリカード
データをフラッシュメモリに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。

SCSIカード
MOドライブやスキャナなどのSCSIデバイスを接続できます。

MOとは
「エム・オー」と読みます。レーザー光線と磁気を利用してデータを読み書きする外部記憶メディアのことです。フロッピーディスクよりも容量が多く、種類により、最大640Mバイトまでデータを記録することができます。

SCSIとは

「スカジー」と読みます。コンピュータと、MOドライブやプリンタなどの周辺機器を接続するための規格のことです。周辺機器などをSCSIで接続すると、本機を含めて最大７台まで数珠つなぎに接続することができます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

イーサネットとは

コンピュータ間のデータ通信方式のことで、職場などで複数のコンピュータをネットワーク（LAN）でつないで、データをやりとりするときに使われます。

TA（ターミナルアダプタ）カード

ISDN回線に接続できます。

ISDNとは

NTTのデジタル通信網を使った電話で、通信速度が速く、1回線で従来の2回線が使えます。

本機には、PC Cardタイプ I とタイプ II に準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また 、本機のPC CARD（PCカード）スロットは16ビットCardおよびCard Busに対応しています。
（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません。）

ちょっと一言

ソニー製“メモリースティック”用PCカードアダプターMSAC-PC2Nなどを取り付ければ、“メモリースティック”を使って、“メモリースティック”対応機器とデータをやりとりできます。

ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによっては、ドライバを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバを入手してお使いください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータに知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトです。

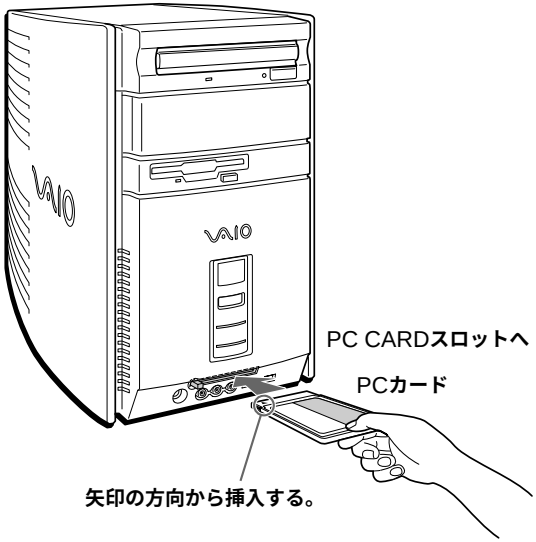
PCカードを取り付ける

PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

カードをPC CARD（PCカード）スロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。

カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバをお使いください。
- 「コントロールパネル」の中の［システム］をダブルクリックして、「システムのプロパティ」の中の［ハードウェア］タブをクリックし［デバイスマネージャ］をクリックして「デバイスマネージャ」画面を表示させてPCカードに「！」が付いている場合は、ドライバを削除し、再度インストールしてください。

PCカードを取り出すには

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているとき（本機前面の電源ランプが消灯）は、PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押すだけでPCカードを取り出せます。（手順1～5は不要です。）
本機がスタンバイモードのとき（本機前面の電源ランプがオレンジ色に点灯）は、本機を通常の動作モードに戻してから手順1～6を行ってください。本機を通常の動作モードに戻す方法については、32ページをご覧ください。

1 デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をダブルクリックする。

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 リストから取り出したいPCカードをクリックし、 停止(S) をクリックする。

「ハードウェア デバイスの停止」画面が表示されます。

3 取りはずすPCカードを確認し、 OK をクリックする。

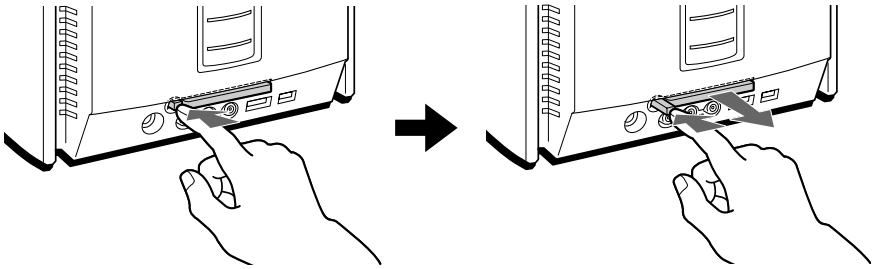
「…は安全に取り外すことができます。」画面が表示されます。

4 OK をクリックする。

5 「ハードウェアの取り外し」画面の 閉じる をクリックする。

6 PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押す。

一度イジェクトボタンを押してボタンを手前に引き出し、出たボタンをもう一度押すとPCカードを取り出すことができます。



カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。

メモリを増設する

本機の内部の拡張メモリスロットにメモリを増設することができます。
メモリを増設すると、データの処理速度や複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- メモリの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- メモリ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- メモリ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- メモリ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーと後面パネルを取り付けてから電源を入れてください。

メモリモジュールを取り付ける

別売りのメモリモジュールを取り付けることにより、メモリを増設します。
ソニー製のメモリーモジュールは、以下のものが本機に取り付けられます。

容量	メモリーモジュール	同じメモリを2枚増設すると
128Mバイト	PCVA-MM128S	最大256Mバイトに増設
256Mバイト	PCVA-MM256S	最大512Mバイトに増設

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが2つあります。
本機は、標準で128Mバイトのメモリモジュールが1枚装着されています。PCVA-MM128Sを1枚取り付けることにより、256Mバイトまでメモリを増設できます。また、標準で装着されている128Mバイトのメモリモジュールを取りはずし、PCVA-MM256Sを2枚取り付けることにより、最大512Mバイトまでメモリを増設できます。
取り付けの際には、メモリモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

メモリモジュールを選ぶときのご注意

- メモリモジュールには、さまざまな種類のものが存在します。市販のメモリモジュールを取り付ける際には、その製品が本機での動作保証を明記していることをご確認ください。
- 市販のメモリモジュールについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点はメモリモジュールの販売元にご相談ください。

取り付けるときのご注意

メモリモジュールの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したままメモリモジュールを取り付けたり取りはずしたりすると、メモリモジュールや本機、周辺機器が壊れることがあります。

- 静電気でメモリモジュールが破壊しないように、メモリモジュールを取り付けるときは、次のことをお守りください。
  - メモリを増設するときは、静電気の起こりやすい場所(カーペットの上など)では作業しないようにしてください。
  - 静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
  - メモリモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリモジュールを持つときは半導体やコネクタに触れないようにしてください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

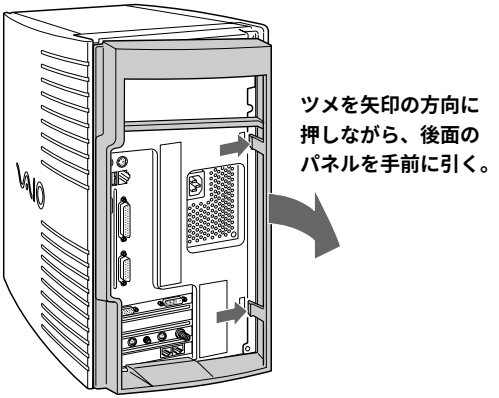
1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

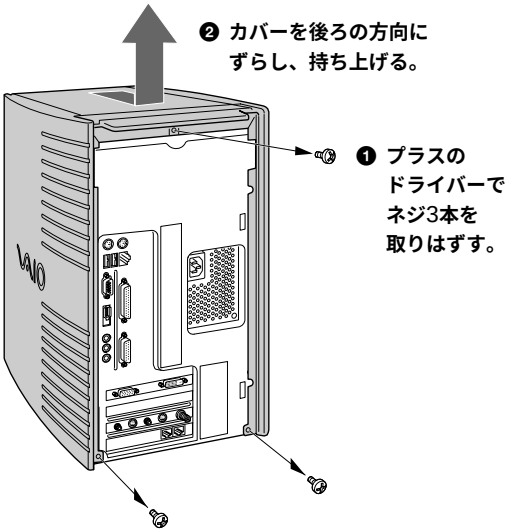
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

次のページにつづく

2 後面のパネルを取りはずす。



3 本機後面のネジをはずし、カバーを取りはずす。



ご注意

取りはずした3本のネジはカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

4 メモリモジュールを梱包から取り出す。

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを静電気防止袋から取り出します。

5 本機を横に倒して置く。

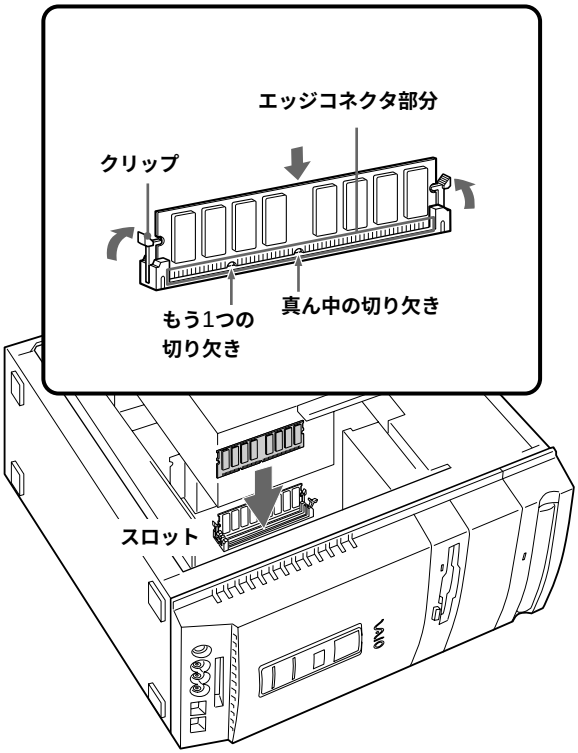
本機の右側面が下になるように置くと、メモリモジュールを取り付けやすくなります。

6 メモリモジュールを取り付ける。

メモリモジュールにはエッジコネクタ部分の真ん中に切り欠きがあり、その切り欠きによって分けられたエッジの片方にだけもう1つ切り欠きがあります。

❶ メモリモジュールのエッジコネクタ部分のもう1つの切り欠きがある方を本機の底側にしてスロットに合わせる。

❷ クリップが起き上がり、固定されるまでメモリモジュールを垂直にスロットへ押し込む。

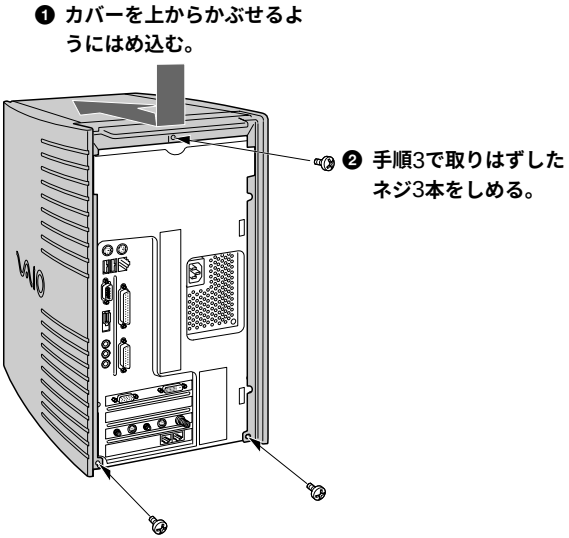


メモリモジュールの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

次のページにつづく

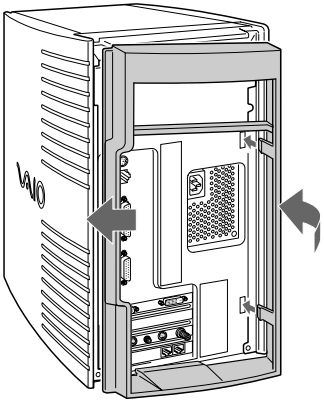
7 カバーを取り付ける。

カバーを上からかぶせるようにはめ込み、ネジをしめます。



8 後面のパネルを取り付ける。

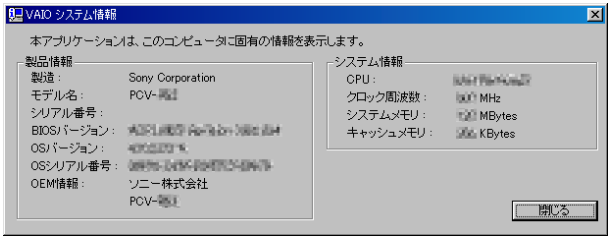
先に左側面のツメを差し込み、パネルを取り付けます。



9 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

10 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［VAIOシステム情報］を選び、［VAIOシステム情報］をクリックする。

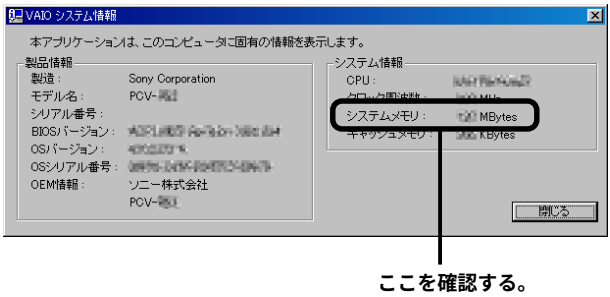
「VAIOシステム情報」画面が表示されます。



11 「システムメモリ」の項目が増設後のメモリ容量になっていることを確認する。

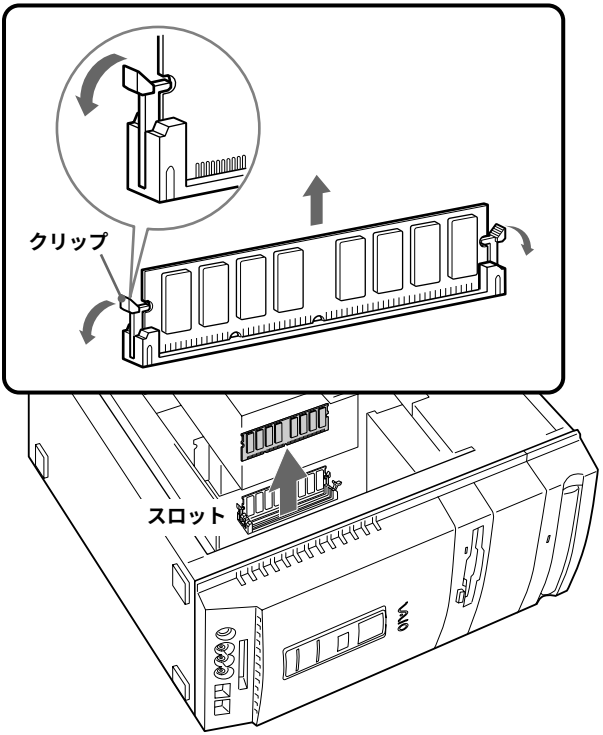
メモリの容量が正しければ、メモリの増設は完了しました。

メモリの容量が増えていないときは、本機の電源を切っていったんメモリモジュールを取りはずし、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。



メモリモジュールを取りはずすには

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリスロットの両端のクリップを外側に押し、メモリモジュールをはずし、スロットからゆっくり抜き取ります。



ハードディスクドライブを増設する

本機内部のハードディスクドライブベイにハードディスクドライブを1つ増設することができます。

ご注意

- ハードディスクドライブの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、VAIOカスタマーリンクの「ハードディスクアップグレードサービス」をご利用されることをおすすめします。
  詳しくは、以下のURLをご覧ください。
  http://vcl.vaio.sony.co.jp/
- ハードディスクドライブの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- ハードディスクドライブ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- ハードディスクドライブ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- ハードディスクドライブ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーと後面パネルを取り付けてから電源を入れてください。
- ドライブベイは3.5インチサイズです。
- 増設するハードディスクドライブによっては本機で動作しないものがあります。増設について詳しくは、増設機器メーカーにお問い合わせください。
- 増設するハードディスクドライブによってはi.LINK対応機器から動画を取り込む際に制限が生じる場合があります。
- 増設するハードディスクドライブは、SLAVE（スレーブ）に設定してください。設定方法については、増設するハードディスクドライブの取扱説明書をご覧ください。

ハードディスクドライブを取り付ける

ハードディスクドライブを取り付ける際には、本機のカバーを取りはずす必要があります。以下の手順にしたがってハードディスクドライブを取り付けます。
増設するハードディスクドライブの取扱説明書もあわせてご覧ください。

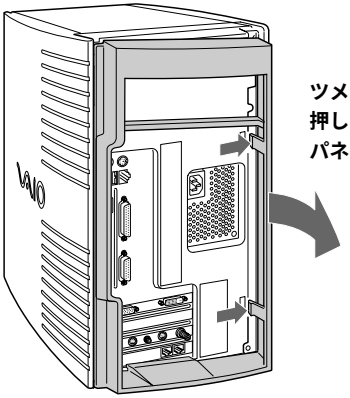
次のページにつづく

1 **本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。**

ご注意

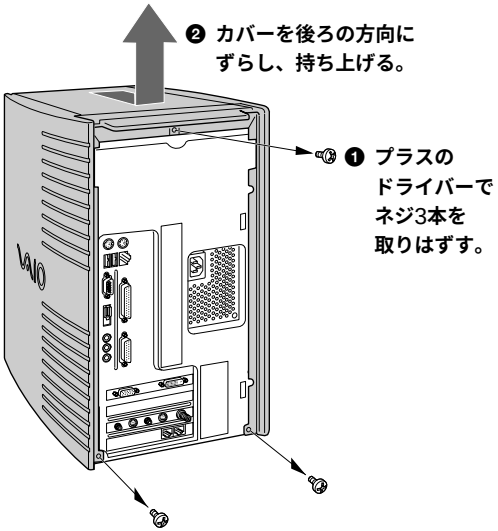
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 **後面のパネルを取りはずす。**



ツメを矢印の方向に押しながら、後面のパネルを手前に引く。

3 **本機後面のネジをはずし、カバーを取りはずす。**



❷ カバーを後ろの方向にずらし、持ち上げる。

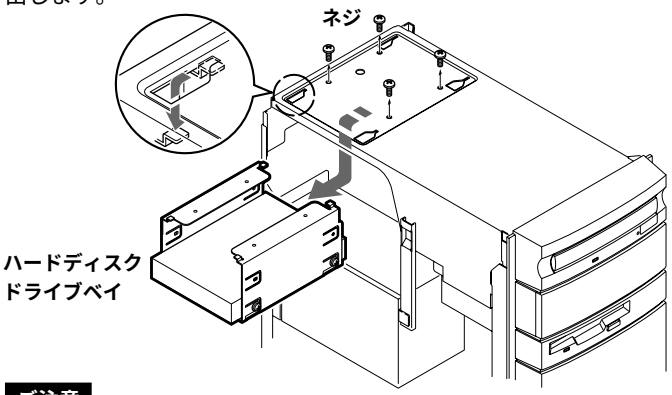
❶ プラスのドライバーでネジ3本を取りはずす。

ご注意

取りはずした3本のネジはカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

4 ハードディスクドライブベイを取り出す。

お買い上げ時に搭載のハードディスクドライブに接続されているケーブル類およびネジを取りはずし、ハードディスクドライブベイを取り出します。

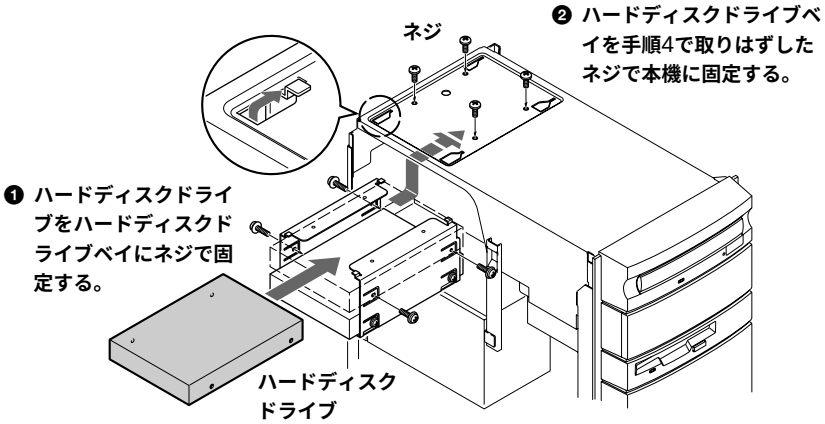


ご注意

取りはずした4本のネジはハードディスクドライブベイを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

5 ハードディスクドライブベイに増設するハードディスクドライブを取り付ける。

増設するハードディスクドライブをハードディスクドライブベイにネジで固定し、ハードディスクドライブベイを元の位置に取り付けます。手順4で取り外したケーブル類を、お買い上げ時に搭載のハードディスクドライブおよび増設したハードディスクドライブの両方に接続します。

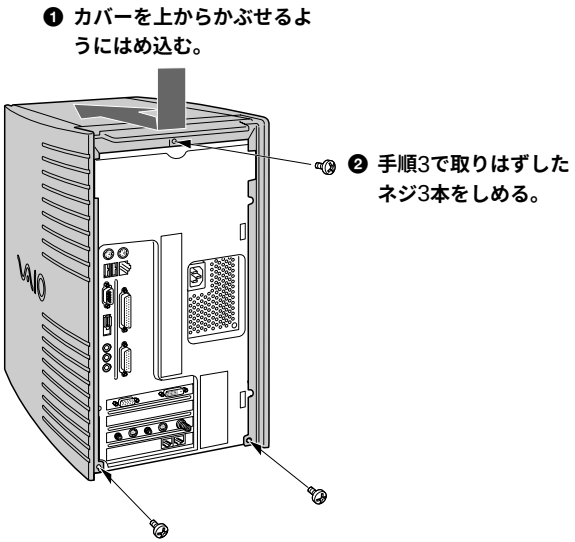


ハードディスクドライブの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクにお問い合わせください。

次のページにつづく

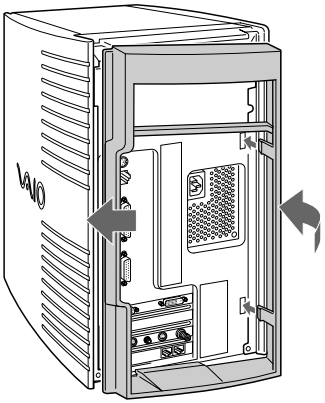
6 カバーを取り付ける。

カバーを上からかぶせるようにはめ込み、ネジをしめます。



7 後面のパネルを取り付ける。

先に左側面のツメを差し込み、パネルを取り付けます。



ハードディスクドライブを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

その他のデバイスを増設する

本機の前面の拡張デバイスベイにDVD-ROMドライブやZIPドライブなどの拡張用のデバイスを1つ増設することができます。

ご注意

- デバイスの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- デバイスの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- デバイス増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- デバイス増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- デバイス増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーと後面パネルを取り付けてから電源を入れてください。
- 拡張デバイスベイは5インチサイズです。
- 本機の拡張デバイスベイにはSecondary（セカンダリ）IDEのコネクタが用意されています。増設するデバイスがIDEの場合は、SLAVE（スレーブ）に設定してください。設定方法については、増設するデバイスの取扱説明書をご覧ください。
- 増設する機器によっては本機で動作しないものがあります。
  増設について詳しくは、販売店または増設機器メーカーにお問い合わせください。

デバイスを取り付ける

デバイスを取り付ける際には、本機のカバーを取りはずす必要があります。
以下の手順にしたがってデバイスを取り付けます。
増設するデバイスの取扱説明書もあわせてご覧ください。

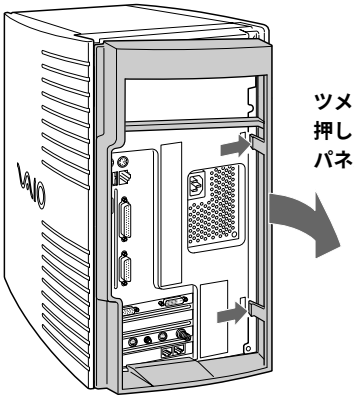
1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

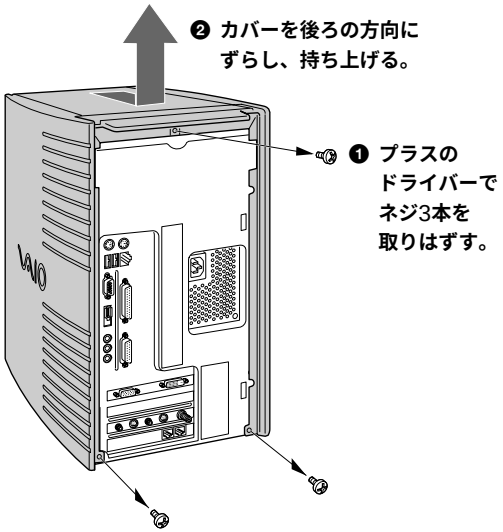
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

次のページにつづく

2 後面のパネルを取りはずす。



3 本機後面のネジをはずし、カバーを取りはずす。

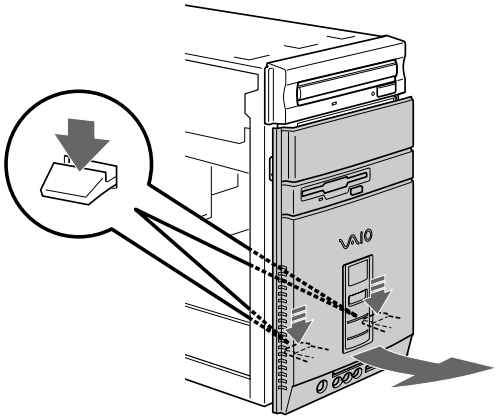


ご注意

取りはずした3本のネジはカバーを取り付けるときに必要になります。紛失しないようにご注意ください。

4 前面パネルのカバーを取りはずす。

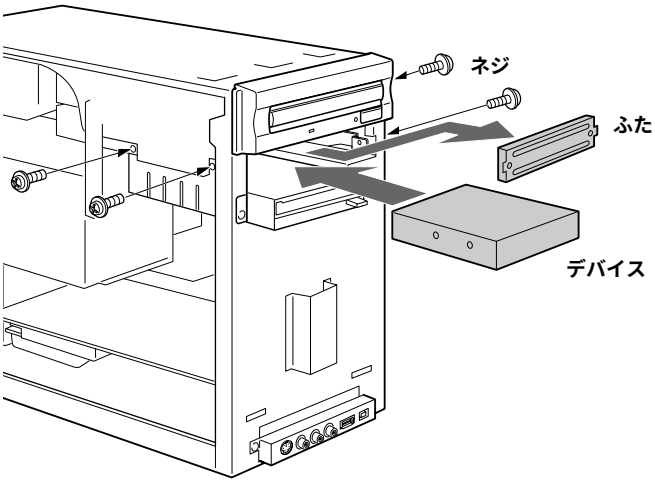
本体の両脇から手を入れ、前面パネル裏側にあるツメを押し下げながら前面パネルを下にずらして手前にはずします。



5 拡張デバイスベイのふたを取りはずし、増設するデバイスを取り付ける。

本機の拡張デバイスベイのふたを手前に取りはずし、デバイスベイに増設するデバイスをネジで固定します。

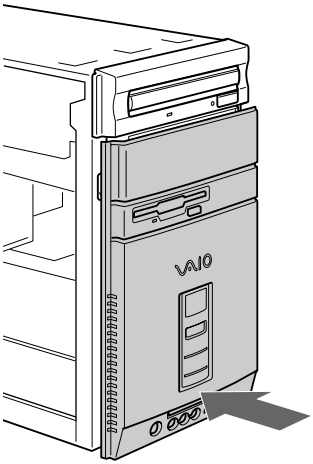
取り付けかたについて詳しくは、増設する機器の取扱説明書をご覧ください。



デバイスの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

次のページにつづく

6 **前面パネルのカバーを取り付ける。**

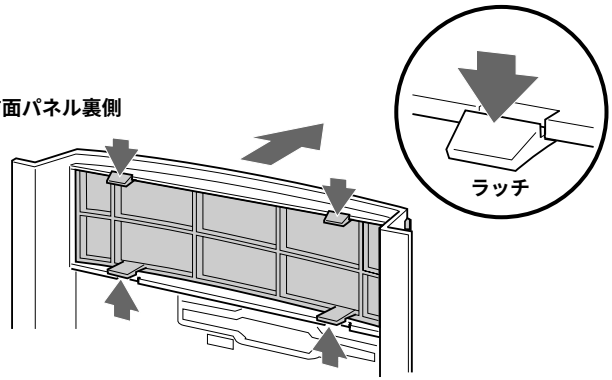


ベイカバーを取りはずすときは

DVD-ROMドライブなど、前面からディスクなどを挿入する機器を増設したときは、ベイカバーを前面パネルから取りはずしてから、前面パネルのカバーを取り付けます。

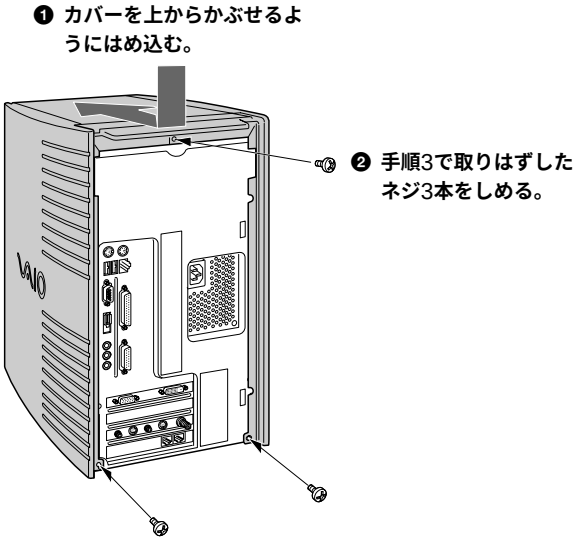
前面パネルの裏側から、ベイカバーのラッチを内側に押し込み、ベイカバーの中央部を外側に押してベイカバーを取りはずしてください。

前面パネル裏側



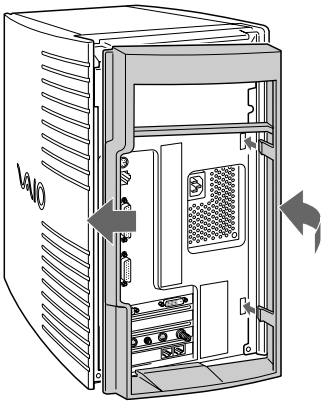
7 カバーを取り付ける。

カバーを上からかぶせるようにはめ込み、ネジをしめます。



8 後面のパネルを取り付ける。

先に左側面のツメを差し込み、パネルを取り付けます。



デバイスを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

セットアップ編

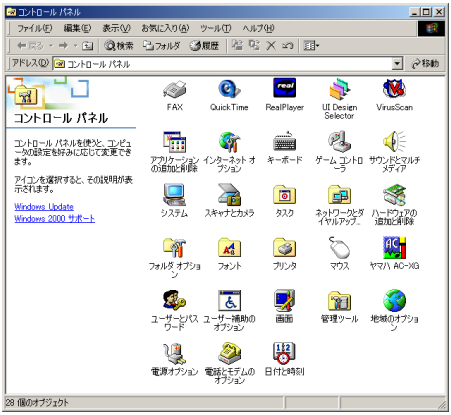
操作環境を自分の好みに合わせる 138

本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピュータを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために表示される画像）などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。操作環境の変更は、Windows 2000のコントロールパネルで行います。

コントロールパネルとは

操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 2000に標準で装備されているツールです。

コントロールパネルを開くには、デスクトップ画面左下の をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックします。
設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目の画面を表示させ、設定を変えます。



アイコン	できること
（キーボード）	キーボードの設定を変更できます。
（UI Design Selector）	ソニー製ソフトウェアのデザインを変更できます。（152ページ）
（ヤマハ AC-XG）	音質の設定を変更できます。（153ページ）
（サウンドとマルチメディア）	Windows 2000の起動時や終了時の音、警告音などを変更できます。
（日付と時刻）	本機に登録してある日付や時刻を変更できます。
（画面）	解像度を変更したり、画面の背景、スクリーンセーバーを変更できます。（139ページ）

ディスプレイの設定を変更する

画面の背景、スクリーンセーバー、ウィンドウの枠の色、デスクトップ画面上のアイコンのデザイン、アクティブデスクトップ、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［背景］、［スクリーンセーバー］、［デザイン］、［Web］、［効果］、［設定］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。

設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。

4 設定が終了したら、［OK］または［適用(A)］をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

❑ **背景**（140**ページ**）
画面の背景について設定する画面です。

❑ **スクリーンセーバー**（141**ページ**）
スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。

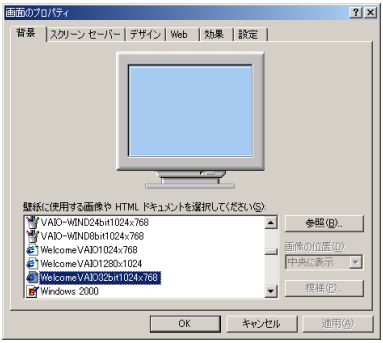
❑ **デザイン**（142**ページ**）
ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。

❑ Web（143**ページ**）
アクティブデスクトップについて設定する画面です。

❑ **効果**（144**ページ**）
アイコンを変更したり視覚効果を設定する画面です。

❑ **設定**（145**ページ**）
解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景



❑ **壁紙**
表示したい壁紙をクリックして選ぶ。選んだ壁紙が上のディスプレイ画面にプレビュー表示される。
［参照］: クリックすると、壁紙にできる画像ファイルやアクティブデスクトップを使っているときのみインターネットドキュメント（HTML ファイル）を選ぶ画面が表示される。

画像の位置: 壁紙の表示位置を、 をクリックしてリストから選ぶ。

中央に表示: 壁紙が画面の中央に表示される。

並べて表示: 壁紙が画面全体に表示される。

拡大して表示：壁紙が画面全体に拡大されて表示される。

[模様]: クリックすると、デスクトップに使用する模様を選択する画面が表示される。

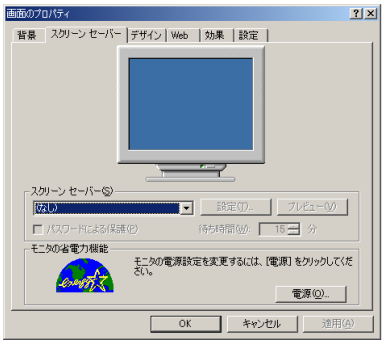
壁紙とは

デスクトップ画面の背景を飾る画像のことです。

アクティブデスクトップとは

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

スクリーンセーバー



❑ スクリーンセーバー

(なし): 使用するスクリーンセーバーを をクリックしてリストから選ぶ。

[設定]: クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定する画面が表示される。

[プレビュー]: クリックすると、設定したスクリーンセーバーが画面全体に表示される。

パスワードによる保護: をクリックして にすると、スクリーンセーバーがパスワードで保護される。

待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを をクリックして選ぶ。

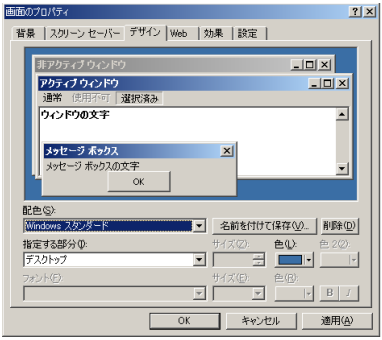
次のページにつづく

❑ モニタの省電力機能

[電源]: クリックすると、「電源オプションのプロパティ」画面が表示される。

スクリーンセーバーが設定されているときは、スクリーンセーバー実行後、「待ち時間」で設定した時間が経過すると、省電力機能が実行されます。

デザイン



❑ 配色

Windows スタンダード: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色を をクリックしてリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: クリックすると、作成した配色に名前をつけて登録する画面が表示される。

[削除]: 名前をつけて登録した配色を削除する。

❑ 指定する部分

デスクトップ: 「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさを をクリックして選ぶ。

色: 指定する部分の色を をクリックして選ぶ。

色2: 色を指定する部分が2つあるときに、もう1つの部分の色を をクリックして選ぶ。

❑ **フォント**

: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類を をクリックしてリストから選ぶ。

サイズ: 文字の大きさを をクリックして選ぶ。

色: 文字の色を選ぶ。

B: クリックすると、文字が太くなる。

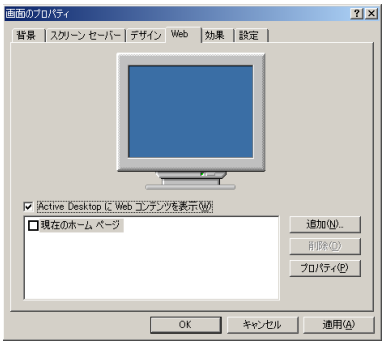
/: クリックすると、文字が斜体になる。

Web

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

アクティブデスクトップとは

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。



❑ Active Desktop**にWebコンテンツを表示**

をクリックして にすると、アクティブデスクトップを使用するように設定される。

下のリストのアクティブデスクトップ項目の をクリックして にすると、表示するアクティブデスクトップ項目を選ぶことができます。

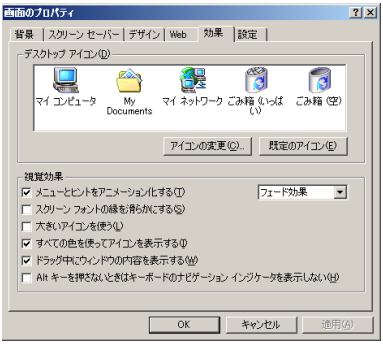
[追加]: 新しいアクティブデスクトップ項目を追加する。

[削除]: 指定したアクティブデスクトップ項目を削除する。

[プロパティ]: 指定したアクティブデスクトップ項目についての詳細が表示される。

次のページにつづく

効果



❑ デスクトップアイコン

変更したいアイコンをクリックして変更します。

[アイコンの変更]: クリックすると、変更できるアイコンの一覧の画面が表示される。

[既定のアイコン]: クリックすると、変更したアイコンをデフォルトのアイコンに戻す。

❑ 視覚効果

メニューとヒントをアニメーション化する:
☐をクリックして☑にすると、画面やメニューの開きかたや閉じかたがアニメーションになる。

スクリーン フォントの縁を滑らかにする: ☐をクリックして☑にすると、複雑な文字が見やすくなる。

大きいアイコンを使う: ☐をクリックして☑にすると、デスクトップに表示されるアイコンに大きいアイコンを使用する。

すべての色を使ってアイコンを表示する: ☐をクリックして☑にすると、アイコンを現在のディスプレイの種類と色の設定で使用できるすべての色を使って表示する。

ご注意

この項目をチェックすると、表示スピードが遅くなることがあります。

ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する:☐をクリックして☑にすると、画面をドラッグするときに画面を表示したままドラッグする。

Altキーを押さないときはキーボードのナビゲーション インジケータを表示しない:☐をクリックして☑にすると、メニューバー内のメニューやファイルをクリックしたときの表示方法が変更される。

設定

❑ ディスプレイ

接続されているディスプレイが表示される。

❑ 画面の色

True Color (32 ビット): 画面の表示色数を をクリックしてリストから選ぶ。

ご注意

本機では「True Color（32ビット）」に設定してお使いになることをおすすめします。

❑ 画面の領域

スライダを左右に動かして画面の解像度を設定する。

ご注意

本機では1024×768ピクセルに設定してお使いになることをおすすめします。

❑ トラブルシューティング

Windows 2000のヘルプが起動する。

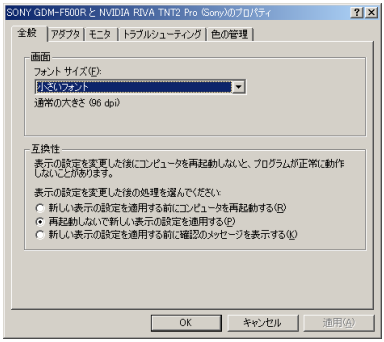
❑ [詳細]

クリックすると、フォントサイズ、リフレッシュレート、ディスプレイを設定する画面が表示される。

次のページにつづく

［詳細］をクリックすると、以下のオプションを設定することができます。

全般



- **画面**

  フォントサイズ: 画面に表示される文字の大きさの大小を をクリックしてリストから選ぶ。（解像度が800×600ピクセルより大きい場合のみ選べます。解像度について詳しくは、「画面の領域」（145ページ）をご覧ください。）

- **互換性**

  ディスプレイの色の設定を変更するときに適用するオプションの をクリックして にして選ぶ。

アダプタ

- **アダプタの種類**

  現在使用しているディスプレイアダプタの種類が表示される。

  [プロパティ]: クリックすると、現在使用しているディスプレイアダプタのプロパティ画面が表示される。

- **アダプタ情報**

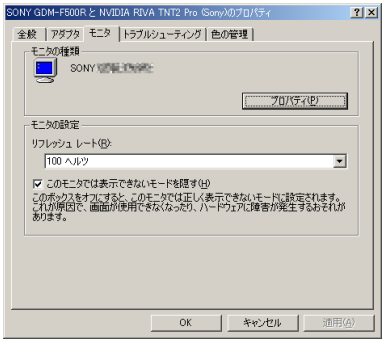
  現在使用しているディスプレイアダプタのハードウェアの情報が表示される。

- **[モードの一覧]**

  クリックすると、有効な画面モードの一覧が表示される。

次のページにつづく

モニタ



- **モニタの種類**

  現在接続されているディスプレイの名前が表示される。

  [プロパティ]: クリックすると、接続されているディスプレイを変更する画面が表示される。

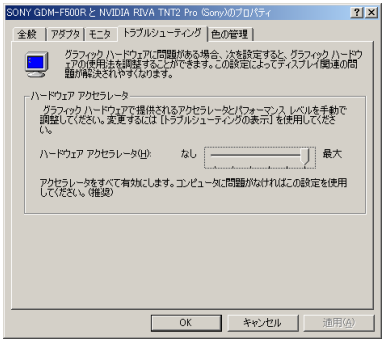
- **モニタの設定**

  リフレッシュレート: 変更したいリフレッシュレートを▼をクリックしてリストから選ぶ。

  リフレッシュレートとは

  コンピュータでは、デスクトップ画面上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

  このモニタでは表示できないモードを隠す: ☐ をクリックして ☑ にし、現在接続されているディスプレイでは正しく表示できないモードを選択できないようにする。



- **ハードウェアアクセラレータ**

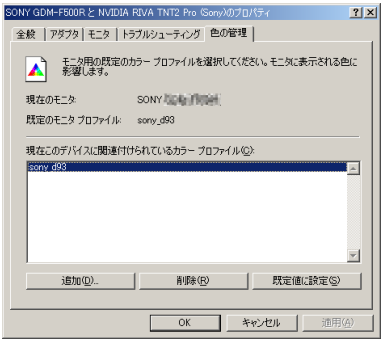
  ハードウェアアクセラレータ: スライダを左右に動かして、ハードウェアアクセラレータの機能をどの程度使うか指定する。

ハードウェアアクセラレータとは

コンピュータの画面表示を高速にしたり、表示できる色数を増やすために、コンピュータに内蔵されている装置のことです。

次のページにつづく

色の管理



- **現在のモニタ**
  接続されているディスプレイの名前が表示される。
- **既定のモニタ プロファイル**
  接続されているディスプレイの設定のカラープロファイルの名前が表示される。
- **現在このデバイスに関連付けられているカラープロファイル**
  接続されているディスプレイに現在関連付けられているすべてのカラープロファイルの一覧が表示される。使用するプロファイルをクリックして選ぶ。
- **[追加]**
  クリックすると、このディスプレイに新しく関連付けたいカラープロファイルを選択する画面が表示される。
- **[削除]**
  クリックすると、選択したカラープロファイルを一覧から削除する。
- **[既定値に設定]**
  クリックすると、選択したカラープロファイルを既定のカラープロファイルとして設定する。

プロファイルとは

Windows 2000のユーザー設定をまとめたもので、ユーザーごとに保持されます。

アクティブデスクトップをWindows 2000のデスクトップ画面からはずす

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が通常のデスクトップ画面になっています。「アクティブデスクトップ」とは、ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップです。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 2000のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

1 デスクトップ画面左下の「スタート」をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

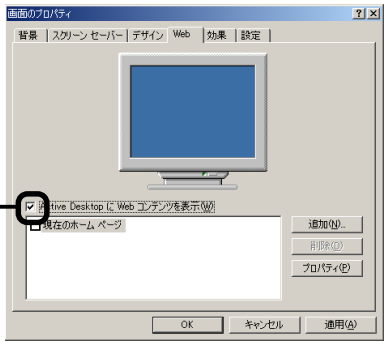
2 （画面）をダブルクリックする。
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［Web］タブをクリックする。

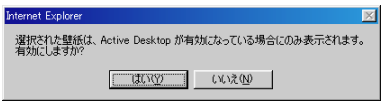
ここをクリックする。

4 ［Active DesktopにWebコンテンツを表示］の☐をクリックして☑にして、チェックをはずす。

ここをクリックして
チェックをはずす。



5 「OK」をクリックする。
下記のメッセージが表示されます。



6 「いいえ(N)」をクリックする。
Windows 2000のデスクトップ画面からアクティブデスクトップがはずれます。

ウィンドウのデザインを変更する

「UI Design Selector」に対応したソニー製ソフトウェアのインターフェイスのデザインを好みに合わせて変更することができます。

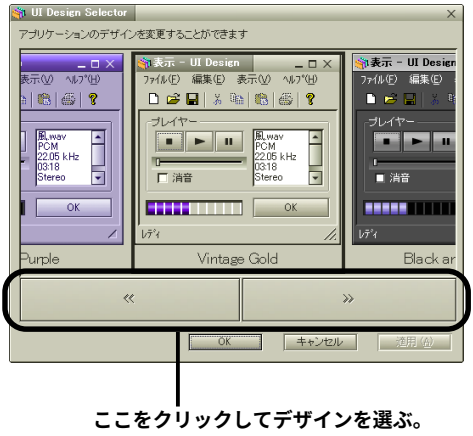
1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （UI Design Selector）をダブルクリックする。

「UI Design Selector」画面が表示されます。

3 ［<<］または［>>］をクリックして、デザインを選ぶ。



ここをクリックしてデザインを選ぶ。

4 適用 (A) をクリックする。

「UI Design Selector」画面のデザインが変わります。ソニー製ソフトウェアの画面もこの画面と同じデザインになります。

5 デザインを選び直すときは、［<<］または［>>］をクリックする。

6 OK をクリックする。

ソニー製ソフトウェアの画面のデザインが変更され、「UI Design Selector」画面が閉じます。

音質の設定を変更する

MIDIに対応した音楽データやゲームのBGMなどの音質を設定します。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 (ヤマハ AC-XG) をダブルクリックする。

「ヤマハ AC-XG設定」画面が表示されます。

画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。

各画面の設定項目は、以下のとおりです。

概要

バージョンなどの情報が表示される。

シンセ

❑ **シンセサイザーエフェクト**

各種エフェクト効果を入／切する。

リバーブ: ☐をクリックして☑にすると、残響効果が加わる。

コーラス: ☐をクリックして☑にすると、奥行きや厚みといった音響効果が加わる。

バリエーション: ☐をクリックして☑にすると、さまざまな音響効果が加わる。

次のページにつづく

❑ **発音品質**

ソフトシンセサイザーの音質を▼をクリックしてリストから選ぶ。

❑ **[初期値]**：各種エフェクトやソフトシンセサイザーの音質を初期値に戻す。

エコー

❑ **マイクエコー**

有効：☐をクリックして☑にすると、マイク入力に残響効果が加わる。スライダを左右に動かして遅延時間、帰還ゲインを調整する。

ご注意

マイクエコーが有効になっているときは、録音はできません。

❑ **[初期値]**：マイク入力の残響効果を初期値に戻す。

3 設定が終了したら、OKをクリックする。

手順2で変更した設定が反映されます。

困ったときは

トラブルを解決するには

トラブルが発生したら、あわてずに下記の流れに従ってください。
また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

「主なトラブルとその解決方法」（157ページ）をチェックする

お使いのコンピュータの症状に合うものがないか確認してください。また、ソフトウェアについてのトラブルは、各ソフトウェアに付属の取扱説明書またはヘルプも合わせてご覧ください。Windows 2000の使いかたについては、「スタート」メニューの［ヘルプ］をクリックして、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

「Q&A Search」を使う

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、お客様からのお問い合わせが多い質問と回答やQ&A集を掲載しています。詳しくは「「Q&A Search」を使ってトラブルを解決する」（168ページ）をご覧ください。

それでもトラブルが解決しないときは

VAIOカスタマーリンクまたはお買い上げ店にご相談ください。

VAIOカスタマーリンクにお問い合わせいただくときは

付属のVAIOカルテと筆記用具をご用意ください。また事前に以下のことを確認してください。

- お客様のカスタマーID
- 本機の型名：PCV-R73K/R63K
- 本機に接続している機器
- 本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、そのソフトウェアの名前とバージョン
- トラブルの状況と発生時期／頻度
- その他お気づきの点

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動後または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」（31ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

トラブルの内容	参照ページ
電源	158ページ
ディスプレイ	159ページ
スピーカー	160ページ
リモコン	161ページ
文字入力	161ページ
マウス	162ページ
フロッピーディスク	163ページ
ハードディスク	164ページ
CD-ROM／CD-RW／CD-R	164ページ
i.LINK	165ページ
録画、再生	165ページ
モデム	165ページ
インターネット	166ページ
Windowsのメッセージ	167ページ

次のページにつづく

⏻ 電源

電源が入らない。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows 2000は、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認してください。

→ 「電源を切る」(31ページ) の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの Enter (エンター) キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［シャットダウン］を選んでも「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Alt (オルト) キーを押しながら F4 キーを数回押して「Windowsのシャットダウン」画面を表示させ、「シャットダウン」をクリックして選び、［OK］をクリックしてください。

Alt (オルト) キーを押しながら F4 キーを数回押しても「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Ctrl (コントロール) キーと Alt (オルト) キーを押しながら Delete (デリート) キーを押し、「Windowsのセキュリティ」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックしてください。

→ 上記のいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻ (電源) ボタンを4秒以上押して電源ランプが消灯するか確認してください。
ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safeモードで起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」(31ページ) の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。

本機がスタンバイモードへ移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。再起動できない場合は、本機前面の ⏻ (電源) ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。
ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出る。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl (コントロール) キーと Alt (オルト) キーを押しながら Delete (デリート) キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。

詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(170ページ) および「パーティションサイズを変更する」(173ページ) をご覧ください。

ディスプレイ

画面に何も表示されない。

→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する。

→ 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する。

→ ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画像が乱れる。

→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。

画質が悪い。

→ ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画像の端が欠ける。

→ ディスプレイの調整ボタンで表示位置を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画面に細い横線が出る。

→ トリニトロン管内部のアパチャーグリルに取り付けられたダンパーワイヤーの影です。ダンパーワイヤーは、アパチャーグリルの振動を抑える働きをしています。アパチャーグリルは、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイ HMD-H200などのトリニトロン管特有の構造です。故障ではありません。

テレビの映像が映らない。

→ 本機とアンテナを正しく接続する。別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

→ ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200をお使いの場合は、アンテナを接続する。別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

スピーカー

スピーカーから音が出ない。

→ ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200などをお使いの方は、ディスプレイのヘッドホンケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。

→ ディスプレイの消音ボタンが「ON」になっていないか確認する。

→ ディスプレイの内蔵スピーカーの音量が最小になっている。コントロールボタンで音量を上げる。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーの音声ケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。

→ アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。デスクトップ画面右下のタスクトレイの（スピーカーアイコン）をダブルクリックして、音量を上げる。

リモコン

リモコンで操作できない。

→ リモコンとリモコン用受光ユニットの間に障害物がある。障害物を取り除く。

→ リモコンと受光ユニットの距離が離れすぎている。近寄って操作する。

→ リモコンの発光部が受光ユニットの方を向いていない。リモコンを受光ユニットに向ける。

→ リモコンの電池が＋／－逆に入っている。正しい方向に入れ直す。

→ リモコンの乾電池が消耗している。電池を交換する。

→ 本機の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本機と蛍光灯を離して設置する。

「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「VAIO」になっているか確認する。

テレビを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「テレビ」になっているか確認する。

→ テレビのメーカー番号の設定を確認する。（27ページ）

文字入力

日本語が入力できない。

→ 「文字を入力する」（49ページ）をご覧ください。

全角の「～」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（53ページ）、ひらがなで「から」と入力し「～」が選ばれるまでスペースキーを押すか、Shift（シフト）キーを押しながら ^ ～ キーを押します。

URLで使われる半角の「~」（チルダ）が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「直接入力」を選び、^ ～ キーを押すか、MS-IMEツールバーで「半角英数」（55ページ）を選び Shift（シフト）キーを押しながら ^ ～ キーを押します。

入力した文字が表示されない。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）画面のどこかをクリックするか、Alt（オルト）キーとTab（タブ）キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする（画面の上の部分が青い色になります）。

次のページにつづく

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字を入力できない場合は、キーボード右上のNum Lockランプが消灯していないか確認してください。消灯している場合は、Num Lock（ナム・ロック）キーを押してランプを点灯させてから入力してください。

→ 1 **「コントロールパネル」ウィンドウの中の（システム）をダブルクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 **［ハードウェア］タブをクリックする。**

3 **［デバイスマネージャ］をクリックする。**

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

4 **キーボードの項目をクリックする。**

「日本語 PS／2キーボード（106／109キー（Ctrl＋英数）」と表示されます。

上記と異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する。（180ページ）

→ Windows キーを押して「スタート」メニューを表示させ、↑ キーまたは ↓ キーを押して［シャットダウン］を選んで、Enter（エンター）キーを押す。そのあと ↑ キーまたは ↓ キーで［再起動する］を選び、Enter(エンター）キーを押して再起動する。

→ Windows キーを使って電源を切れない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押して、本機を再起動する。

→ CD-ROMを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt(オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、CD-ROMを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キー、Delete（デリート）キーを同時に押して、本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、本機前面の⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源をいったん切ってから入れ直す。

スクロールしない。

→ スクロール機能に対応していないソフトウェアを開いている。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 68ページをご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「このディスクはライトプロテクトされています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（72ページ）

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（72ページ）

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

次のページにつづく

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(170ページ) をご覧ください。

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(170ページ) をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

→ CD-RWドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

→ 上記の操作を行っても起動できない場合は、リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(170ページ) をご覧ください。

CD-ROM／CD-RW／CD-R

CD-ROMが読み込めない、または音楽CDの再生時、音がとぎれる。

→ CD-ROMをCD-RWドライブに入れてください。

→ CD-ROMが正しくCD-RWドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして入れます。

→ CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

CD-ROMが取り出せない。

→ 59ページをご覧ください。

CD-RW／CD-Rが取り出せない。

→ CD-RW／CD-RはCD-RWイジェクトボタンを押しても状態によっては取り出せないことがあります。取り出しかたについては「Direct CD」または「Easy CD Creator」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

録画、再生

「DVgate」または「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画が正常にできない。

→ 本機につないだ機器が正しく接続されているか確認する。（92、100ページ）

→ 「DVgate」または「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

モデム

内蔵モデムからダイヤルできない。

→ お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤル方法を設定する」をご覧になるか、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。
「内蔵モデムマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（15ページ）をご覧ください。

→ 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤルの設定を確認する」をご覧ください。

→ テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。

→ 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。

モデムはダイヤルしているが、接続できない。

→ 詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤルの設定を確認する」をご覧ください。

次のページにつづく

モデムの通信速度が遅い。

→ 電話回線が混み合っている場合や電話回線の品質が悪い場合は、モデムはエラーが発生しないように自動的に通信速度を落として通信します。

→ 受信側のモデムが本機の内蔵モデムと同じ規格「K56flex/V.90」でない場合、本機に内蔵のモデムの最高速度56kbpsは出ません。

→ 日本国内では受信するときのみ最高速度56kbpsで通信できます。送信するときは、電話回線の中継局の制限で通信速度が遅くなります。

→ 分配器などを使って電話回線を分岐したときは、通信速度が遅くなったり、まったく通信できないことがあります。1本のテレホンコードで本機後面のLINEコネクタと壁の電話回線のコンセントをつないでください。

インターネット

インターネットに接続できない。

→ 本機が電話回線に正しく接続されているか確認する。詳しくは別冊の「はじめにお読みください」の「接続する／準備する」をご覧ください。

→ デスクトップ画面上の （インターネットに接続）をダブルクリックして設定を確認する。

→ 本機後面パネルのTELEPHONEジャックにつないだ電話機の受話器を取り、発信音がするかどうか確認する。

→ 内蔵モデムがWindows 2000に正しく認識されているか確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「内蔵モデムの設定を確認する」をご覧ください。「内蔵モデムマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（15ページ）をご覧ください。

→ 本機に接続できる回線は、一般アナログ電話回線です。ダイヤル方法を確認してください。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤル方法を設定する」をご覧ください。

→ インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

→ 接続後に、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで使用状況に合わせて設定しなければならない場合があります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしているインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

Windowsのメッセージ

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「このディスクはライトプロテクトされています」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（72ページ）

電源を入れた後、「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing Press any key to restart.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。その後、Enter（エンター）キーを押す。

「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ BIOSの設定内容が壊れている。BIOSをお買い上げ時の設定に戻す。詳しくは、「BIOSセットアップマニュアル」の「LOAD SETUP DEFAULTS」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」はVAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）から入手できます。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

「Q&A Search」を使ってトラブルを解決する

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）には「Q&A Search」があり、VAIOに関する質問に対する回答を掲載しています。

「Q&A Search」を使うにはあらかじめインターネットに接続するよう設定しておいてください。インターネットの接続については、別冊の「はじめにお読みください」および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

1 **デスクトップ画面左下の をクリックして［お気に入り］にポインタを合わせ、［ソニーお勧めのサイト］を選び、［VAIOカスタマーリンク］をクリックする。**

インターネットに接続してホームページを見るためのソフトウェアが起動し、VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

2 **[Q&A Search] をクリックする。**

「Q&A Search」画面が表示されます。

3 **検索したい内容を入力し、 をクリックする。**

「検索結果一覧」画面が表示されます。

4 **読みたい文面をクリックする。**

回答の内容が表示されます。

ちょっと一言

VAIOカスタマーリンクのホームページではVAIOに関する最新情報や、アップデートプログラムなどもあります。困ったら、まず一度ご覧ください。

その他

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROMを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の2種類があり、お買い上げ時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使って本機を再セットアップすることで、ハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。
  詳しくは「パーティションサイズを変更する」（173ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 2000だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使って行ってください。「アプリケーション リカバリ CD-ROM」を使わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。
- BIOSの設定を変えた場合は、お買い上げ時の設定に戻してから再セットアップしてください。

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

再セットアップする前に

本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。リカバリ CDを使って本機を再セットアップすると、C:ドライブにあるファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。
C:ドライブに保存している大切なデータは、再セットアップを行う前に必ずバックアップを取ってください。

保存しているデータは、次の方法で残しておくことができます。

- フロッピーディスクにコピーする。
- CD-RW／CD-Rにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-Rなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

再セットアップする

再セットアップする前に、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。
以下の手順に従って再セットアップします。

1 付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 1 of 2**」をCD-RWドライブに入れる。**
入れかたについて詳しくは、「ディスクを入れる」(57ページ)をご覧ください。

2 Windows 2000が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。
Windows 2000の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」(31ページ) をご覧ください。

3 30秒ほど待ってから、⏻ (電源) ボタンを押して本機の電源を入れる。
しばらくするとCD-RWドライブから起動し、リカバリ CD上のプログラムが動作します。

4 「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。
メニュー画面が表示されます。

次のページにつづく

5 再セットアップの方法を選び、Enter(エンター）キーを押す。

次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。

「1.フォーマットしてリカバリ...」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「2.パーティションサイズの変更...」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「3.出荷時状態へリカバリ...」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

「4.リカバリ CDを終了する...」：再セットアップを中止します。

6 画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうか聞かれたときは、Y キーを押してEnter(エンター）キーを押してください。

7 「2枚目のディスクを入れてください。何かキーを押すと、コンピューターを再起動して、リカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 2**」を**CD-RW**ドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

本機が再起動し、再セットアップの続きが始まります。

8 「システム リカバリ CD-ROM**」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ** CD-ROM**」を取り出してから、本機の電源を切る。**

9 本機の電源を入れる。

10 別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000**を準備する」の手順に従って、**Windows 2000**をセットアップする。**

セットアップが終了すると、本機が再起動します。

11 管理者権限（Administrators**）でログオンし、「アプリケーション リカバリ** CD-ROM**」を**CD-RW**ドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、［OK］をクリックしてください。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。詳しくは、「BIOSセットアップマニュアル」の「Exitメニュー」をご覧ください。

「BIOSセットアップマニュアル」はVAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）から入手できます。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」や「Giga Pocket」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリCDを使ってパーティションサイズを変更できます。

動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。

パーティションを区切ると、Windows 2000はC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するのに非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-Rなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 **「再セットアップする」（171ページ）の手順1～4を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「2.パーティションサイズの変更...」を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
パーティションサイズの選択画面が表示されます。
Esc（エスケープ）キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、Enter（エンター）キーを押す。**
サイズの変更を中止する場合は、N キーを押してから Enter（エンター）キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 **画面の指示に従って操作する。**
操作を続けるかどうかを聞かれたときは Y キーを押し、Enter（エンター）キーを押してください。
パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、本機の電源を切る。**

6 **本機の電源を入れる。**

7 **別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。**
セットアップが終了すると、本機が再起動します。

8 **管理者権限（Administrators）でログオンし、「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をCD-RWドライブに入れる。**
自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、［OK］をクリックしてください。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

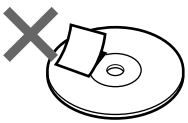
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 2000のヘルプをお読みください。

CD-ROM／CD-RW／CD-Rディスクの取り扱いについて

CD-ROM／CD-RW／CD-Rディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



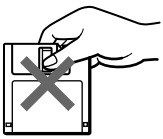
- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。CD-RW／CD-Rは記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。

- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

フロッピーディスクの取り扱いについて

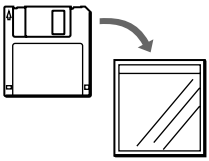
フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。

- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。本機にはコンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。本機をコンピュータウィルスから守るため、定期的なウィルスチェックをおすすめします。
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。
  ネットワークアソシエイツ株式会社
  テクニカルサポート
  電話番号：(03) 3379-7770

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

次のページにつづく

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 2000用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

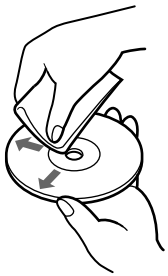
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

CD-ROMディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外側へ軽く拭きます。



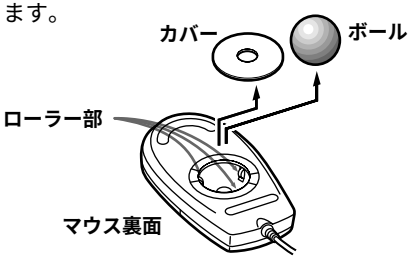
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-RW／CD-Rディスクのお手入れ

- CD-RW／CD-Rディスクは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- CD-RW／CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。

当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

次のページにつづく

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

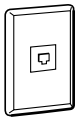
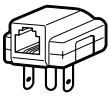
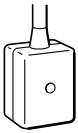
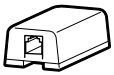
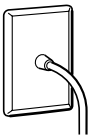
- **型名：**PCV-R73K/R63K
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

部品の交換について

この製品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品はご同意いただいた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリー
モジュラ型 	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型 	テレホンモジュラーアダプターTL-30 
直付け型ローゼット[1)] 	モジュラーローゼットTL-32CRなど 
埋め込み型[2)] 	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31

1) 直付けタイプからモジュラジャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

2) 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

動画系ソフトウェア入出力データ相関表

本機には動画を扱うソフトウェアが数多く付属しています。どのソフトウェアを使うとどのような種類のデータを本機に入力できるのか、入力データをどのような種類のデータに変換できるのか、およびどのような種類のデータを本機から出力できるのかという関係を186ページの表で示します。

この相関表をお使いいただくと、動画データを活用する目的によってどのソフトウェアを使えばよいかが簡単に分かります。

ご注意

「Giga Pocket」ソフトウェアでMPEG1またはMPEG2ファイルを作るには、「ビデオカプセル」を書き出す必要があります。「ビデオカプセル」は、MPEGの動画データと各種の付加情報を統合したソニー独自のファイル形式です。

「Giga Pocket」ソフトウェアでMPEG1またはMPEG2ファイルを再生するには、「ビデオエクスプローラ」で読み込みをする必要があります。

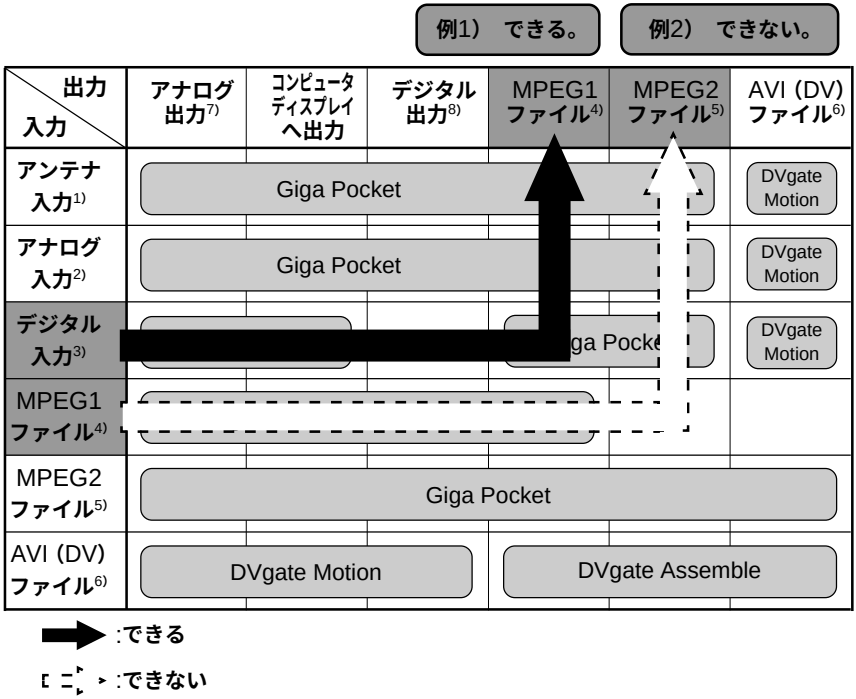
表の見かた

例1）

動画を「Giga Pocket」ソフトウェアを使って本機にデジタル入力し、MPEG1ファイルに変換して出力することができる。

例2）

MPEG1ファイルを「Giga Pocket」ソフトウェアを使って本機に入力することはできるが、MPEG2ファイルに変換して出力することはできない。



<table>
<tr><th>出力
入力</th><th>アナログ出力[7)]</th><th>コンピュータディスプレイへ出力</th><th>デジタル出力[8)]</th><th>MPEG1ファイル[4)]</th><th>MPEG2ファイル[5)]</th><th>AVI（DV）ファイル[6)]</th></tr>
<tr><td>アンテナ入力[1)]</td><td colspan="5">Giga Pocket</td><td>DVgate Motion</td></tr>
<tr><td>アナログ入力[2)]</td><td colspan="5">Giga Pocket</td><td>DVgate Motion</td></tr>
<tr><td>デジタル入力[3)]</td><td colspan="2">Giga Pocket</td><td></td><td colspan="2">Giga Pocket</td><td>DVgate Motion</td></tr>
<tr><td>MPEG1ファイル[4)]</td><td colspan="3">Giga Pocket</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>MPEG2ファイル[5)]</td><td colspan="6">Giga Pocket</td></tr>
<tr><td>AVI（DV）ファイル[6)]</td><td colspan="2">DVgate Motion</td><td colspan="4">DVgate Assemble</td></tr>
</table>

[1)] アンテナ入力：テレビチューナーなどからの映像入力です。

[2)] アナログ入力：ビデオデッキなどからのアナログ映像入力です。

[3)] デジタル入力：デジタルビデオカメラレコーダーなど、i.LINK対応機器からのデジタル映像入力です。

[4)] MPEG1ファイル：ビデオCDなどに使われている動画データの圧縮方式です。「Giga Pocket」ソフトウェアで扱えるのはビデオCD互換のフォーマットのみです。

[5)] MPEG2ファイル：MPEG1より高画質の動画データの圧縮方式です。

[6)] AVI（DV）ファイル：Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。「DVgate Motion」ソフトウェアでは、DV形式で圧縮されたAVIファイルのみを扱っています。

[7)] アナログ出力：ビデオデッキなどへのアナログ映像出力です。

[8)] デジタル出力：デジタルビデオカメラレコーダーなど、i.LINK対応機器へのデジタル映像出力です。

索引

五十音順

ア

アクティブデスクトップ .. 141、143、151
アクティブなウィンドウ 41
イーサネット 117
オートスクロール 38
音楽CD 89
オンラインマニュアル 15

カ

拡張ボード
　拡張スロット 109
　種類 109
　増設する 109
　取り付ける 112
　取りはずす 116
　プラグアンドプレイ 109
　メモリ 110
　リソース 110
　I/Oポート 110
　IRQ 110
　PCI拡張ボード 109
壁紙 140
キーボード
　キーボードを掃除する 180
　キーボードを使う 39
クリック
　クリック 35
　ダブルクリック 35
　右クリック 36
結露 175
コントロールパネル 138
コンピュータウイルス ..... 64、177

サ

省電力機能
　スタンバイモード 32
　ディスプレイ 142
ジョイスティック 108
初期化 71
ズーム 38
スクロール
　オートスクロール 38
　スクロール 37
静止画
　電子メールで送る 83
　取り込む 82
　パノラマ画像を作る 84
　ラベルを作る 85
接続
　ジョイスティック 108
　デジタルビデオカメラレコーダー 92
　テレビ 104
　ビデオカメラレコーダー 100
　ビデオデッキ 100
　プリンタ 106
　i.LINK対応機器 92
　MIDI機器 108
　USB機器 107
操作環境の変更
　アクティブデスクトップの変更 151
　ウィンドウのデザインの変更 152
　音質の設定変更 153
　コントロールパネル 138
　ディスプレイの設定変更 139
ソフトウェア
　不正コピー禁止について 178
　ワードパッド 49
　ヤマハAC-XG 153
　Adobe Premiere 80
　DirectCD 63
　DVDit! ..... 66、78
　DVgate ..... 78、80、186
　DVgate Assemble ..... 80、186
　DVgate Motion ..... 78、80、186
　DVgate Still 82
　Easy CD Creator 63
　Giga Pocket ..... 24、74、100、104
　Media Bar 89
　PictureGear ..... 84、85
　Smart Capture ..... 78、81、82、83
　Smart Connect 86
　UI Design Selector 152

タ

ターミナルアダプタカード 117
ダブルクリック 35
タスクトレイ 51
断片化 173
チルダ 56
ディスプレイ
　お手入れ 179
　省電力機能 142
　ディスプレイの設定変更 139
ディスプレイの設定
　効果 144
　スクリーンセーバー 141
　設定 145
　デザイン 142
　背景 140
　Web 143
デジタルビデオカメラレコーダー 92
デスクトップ画面 15
データ
　書き込み禁止にする 72
　記録する 63
　バックアップをとる
　..... 2、171、173、176、178
　フロッピーディスクのデータを使う
　..... 68
　やりとりする 86
　CD-ROMのデータを使う 60
データズーム 38
デバイス
　増設する 131
　取り付ける 131
　取りはずす 135
デフラグ（最適化） 173
テレビ
　テレビにつなぐ 104
　テレビを見る 76
　番組を録画／再生する 74
電源
　再起動する 33
　スタンバイモード 32
　電源を入れる 30
　電源を切る 31
電話回線
　コンセントの種類 183
動画
　加工／編集する 80
　電子メールで送る 81
　動画系ソフトウェア入出力データ相関表
　..... 184
　取り込む 78
ドライバ ..... 106、111、117
ドラッグする 36
ドラッグアンドドロップする 36

ナ

日本語入力 49
ネットワークカード 117

ハ

パーティション 173
ハードウェアアクセラレータ 149
ハードディスク
　増設する 127
　取り扱いについて 175
　取り付ける 127
　取りはずす 130
　バックアップをとる
　..... 2、171、173、176、178
ハードディスクドライブ 61
バックアップをとる
　..... 2、171、173、176、178
パン 37
ビデオカプセル 75
ビデオカメラレコーダー ..... 74、100
ビデオデッキ ..... 74、100
ビデオ編集 80
フォーマット
　フロッピーディスク 71
　CD-R 65
　CD-RW 65
プラグアンドプレイ 109
プリンタ 106
フロッピーディスク
　入れる 67
　使用できるフロッピーディスク 73
　初期化する 71
　データを書き込み禁止にする 72
　取り扱いについて 176
　取り出す 68

フロッピーディスクドライブ 67
プロファイル 150
ベイカバー 134
ヘルプ ..... 17、18
ホイールボタン 37
ポインタ 34
ポイントする 35

マ

マウス
　マウスを掃除する 180
　マウスを使う 34
右クリック 36
メモリ ..... 110、120
メモリカード ..... 87、116
メモリモジュール
　増設する 120
　取り付ける 120
　取りはずす 126
文字入力 49
　英字入力 55
　カタカナ入力 54
　漢字入力 52
　数字入力 55
　ひらがな入力 53

ラ

リカバリ CD 170
リソース 110
リフレッシュレート ..... 79、83、148
リモコン ..... 23、75、76

ワ

ワードパッド 49

アルファベット順

A

Adobe Premiere 80
AV機器
　テレビ ..... 74、76、104
　ビデオカメラレコーダー ..... 74、100
　ビデオデッキ ..... 74、100

B

BIOS 170

C

CD-R
　入れる ..... 57、65
　お手入れ 179
　記録する 63
　使用できるディスク 62
　取り扱いについて 176
　フォーマットについて 65
CD-ROM
　入れる 57
　お手入れ 179
　使用できるディスク 62
　取り扱いについて 176
　取り出す 59
CD-RW
　入れる ..... 57、65
　お手入れ 179
　記録する 63
　使用できるディスク 62
　取り扱いについて 176
　フォーマットについて 65
CD-RWドライブ 57

D

DirectCD 63
DVDit! ..... 66、78
DVgate ..... 78、80、186
DVgate Assemble ..... 80、186
DVgate Motion ..... 78、80、186
DVgate Still 82

E

Easy CD Creator 63

G

Giga Pocket ..... 24、74、100、104

I

i.LINK対応機器
- 静止画を取り込む 82
- 接続 92
- データをやりとりする 86
- 動画を取り込む 78
- i.LINKとは 94

I/Oポート 110
IRQ 110
ISDN 117

M

Media Bar 89
MIDI機器 108
MO 116

P

PCカード
- 使う 116
- データをやりとりする 86
- 取り出す 119
- 取り付ける 118
- PCカードとは 116

PCI拡張ボード 109
PictureGear ..... 84、85

S

SCSI 117
SCSIカード 116
Smart Capture ..... 78、81、82、83
Smart Connect 86

T

TAカード 117

U

UI Design Selector 152
USB機器 107

W

Windows 2000 138

この説明書は再生紙を使用しています。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用することはできません。
また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損なうことは禁じられています。
コピーガード信号の入った映像は録画することができません。

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" i "は商標です。
- “Memory Stick”（“メモリースティック”）および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- Adobe® 、Adobe® Acrobat® ReaderおよびAdobe® Premiere®は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Copyright © 1999, 2000 Adaptec, Inc. All rights reserved.
  Adaptec および Adaptec社のロゴは、Adaptec, Inc.の登録商標です。
  Easy CD Creator、DirectCDは、Adaptec, Inc.の商標です。
- VirusScanはネットワークアソシエイツ株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

Sony online http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは
VAIOカスタマーリンクへ
● 0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは
VAIOカスタマー専用デスクへ
● 03-3584-6651

VAIOホームページ
VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ
VAIOの最新サポート情報をご案内します。
● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan